

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 30 年度 第 4 回理事会

開催日時 平成 30 年 9 月 28 日(金)
13 時 30 分から 16 時 30 分

開催場所 東京大学理学部 1 号館 710 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)

平成 30 年度第 4 回理事会議事次第

1. 開 会

議事内容

2. 審 議 事 項

- 第 1 号議案 新入会員承認の件
- 第 2 号議案 新入会団体会員承認の件(日本有機地球化学会)
- 第 3 号議案 委員会委員承認の件
- 第 4 号議案 地球惑星科学振興西田賞規則改定の件
- 第 5 号議案 地球惑星科学振興西田賞特定費用準備資金取扱規則改定の件
- 第 6 号議案 学生旅費補助準備資金名称変更の件
- 第 7 号議案 SAKIGAKE-JpGU Hard-rock drilling Focus Group kick-off workshop 共催の件
- 第 8 号議案 その他

3. 報 告 事 項

- 1. 川幡穂高代表理事職務報告
- 2. ウォリス理事(グローバル戦略担当)職務報告
- 3. 中村正人理事(財務担当)職務報告
- 4. 西 弘嗣理事(総務担当)職務報告
- 5. 大会運営委員会活動報告
 - (1)大会運営システムの委託業者の移行の進展状況について
 - (2)2019 年大会の準備状況について
 - (3)JpGU 大会での危機管理体制の検討ワーキンググループの設置について
- 6. 環境災害対応委員会報告
- 7. 顕彰委員会報告
- 8. 教育検討委員会活動報告
 - (1)委員会体制について
 - (2)2018 年国際地学オリンピック参加の結果報告
 - (3)2018 年国際地理オリンピック参加の結果報告
 - (4)アースサイエンスジャパンの状況について
- 9. ジャーナル編集委員会活動報告
- 10. GDPR 対応を含む JpGU の個人情報保護体制の整備について
- 11. その他

4. 閉 会

(資 料)

前回議事録

平成 30 年度第 3 回理事会議事録

P. 1-7

審議事項

第 1 号議案	新入会員承認の件	P. 8-9
第 2 号議案	新入会団体会員承認の件（日本有機地球化学会）	P. 10
第 3 号議案	委員会委員承認の件	P. 11-13
第 4 号議案	地球惑星科学振興西田賞規則改定の件	P. 14-16
第 5 号議案	地球惑星科学振興西田賞特定費用準備資金取扱規則改定の件	P. 17-19
第 6 号議案	学生旅費補助準備資金名称変更の件	P. 20-21
第 7 号議案	SAKIGAKE-JpGU Hard-rock drilling Focus Group kick-off workshop 共催の件	P. 22-25
第 8 号議案	その他	

報告事項

1. 川幡穂高代表理事職務報告	資料なし
2. ウォリス理事（グローバル戦略担当）職務報告	資料なし
3. 中村正人理事（財務担当）職務報告	
第一回財務委員会議事録	P. 26
寄附者数推移	P. 39
寄附金受け入れ明細	P. 40-44
4. 西 弘嗣理事（総務担当）職務報告	
共催・協賛・後援・サポートレター一覧	P. 45
5. 大会運営委員会活動報告	
プログラム関連日程表	P. 46
セッション提案状況	P. 47
ソーシャルメディア（SNS）を利用したポスター発表	P. 48-50
7. 顕彰委員会活動報告	
フェロー候補者推薦募集要項	P. 51-52
西田賞候補者募集要項	P. 53-54
8. 教育検討委員会活動報告	P. 55-56
9. ジャーナル編集委員会活動報告	
ジャーナル活動報告	P. 57
PEPS 投稿出版状況	P. 58
10. GDPR 対応を含む JpGU の個人情報保護体制の整備について	
JpGU 情報安全管理 報告	P. 59
プライバシーポリシー改訂のお知らせとお願い	P. 60
プライバシーポリシー改訂表	P. 61-64

その他

規則

別添

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 30 年度第 3 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 30 年 7 月 31 日 (火)
午後 15 時 00 分から午後 18 時 40 分
2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 331 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 17 名 (定足数 11 名 会議成立)
4. 議長 理事 川幡 穂高
5. 出席役員
理事 阿部 なつ江 (ZOOM 出席)
理事 市川 洋
理事 井出 哲
理事 ウォリス サイモン
理事 小口 千明
理事 川幡 穂高
理事 倉本 圭 (ZOOM 出席)
理事 田近 英一
理事 中村 正人
理事 中村 昭子 (ZOOM 出席)
理事 成瀬 元
理事 西 弘嗣
理事 浜野 洋三
理事 日比谷 紀之
理事 古村 孝志
理事 道林 克禎
理事 村山 泰啓
監事 鈴木 善和
監事 氷見山幸夫

午後 15 時 00 分、定数に足したので川幡穂高会長が開会を宣した。インターネット電話 ZOOM

を利用し、遠隔地から参加する阿部なつ江理事、倉本圭理事、中村昭子理事が審議に参加できることを確認した。議事に先だち、出席者全員が自己紹介を行った。

6. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議した。これを承認した。

第 2 号議案 新入会団体会員承認の件

同じく、定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、日本自然災害学会の入会を審議し、これを承認した。

第 3 号議案 委員会委員承認の件

各委員会の新規委員を承認した。各委員会の委員候補を示し、委員会ごとに審議した。各委員会の委員をリストの通り承認した。教育検討委員会については、西山忠男委員が資料から漏れていたもので、追加の上承認された。また、各委員会の委員長の選出は、規則により委員の互選で決まるが、一方で、過去の理事会議事録にあるように、理事会と委員会との相互理解を深めるため、委員長は理事が対応するのが望ましいということを確認した。

第 4 号議案 SOLAS への大気水圏科学セクション協賛承認の件

申請書に基づき、SOLAS への大気水圏セクションからの協賛を審議し、承認した。

第 5 号議案 就業規則改定の件

就業規則の改訂を審議した。第 19 条「そのほか連合が指定する日」は理事会が指定する事項であるが、総務担当理事に一任することとした。退職金規則第 4 条改訂については取り下げとなり、改訂しない。

第 6 号議案 雇用人事承認の件

本年 5 月に新たに設置した就業規則において、65 歳以上の職員の再雇用は理事会事項であり、既に 65 歳を超えている職員 4 名については本来 7 月 1 日に契約を更新する前に理事会にて審議を行う必要があった。しかし、理事会の開催スケジュールの関係で間に合わなかったもので、追認の形で審議し、4 名の再雇用を承認した。来年度以降には、契約開始の新年度以前の理事会で審議することが確認された。

これまで職員は 7 月からの契約となっていたが、今後はこれを 4 月からの契約に変更するとの報告があった。

また、事務局の営業時間を 9 時 30 分から 17 時 30 分までと設定した旨、報告があった。

第 7 号議案 地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱規則の改定の件

地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱規則の改訂を審議した。西田篤弘会員より、地球惑星科学振興西田賞関連の規則についてご指摘があり、総務委員会、顕彰委員会および西田篤弘会員の間で検討を行っている。

総務担当西弘嗣理事が西田篤弘会員と規則に関して検討し、その結果を顕彰担当中村昭子理事、中村正人理事に報告した後、理事会に報告することとした。

第 8 号議案 会員管理等システム移行ならびにセキュリティ向上の件

連合大会後に、現在の会員管理システムの会社（株式会社リアルテック）から、人材不足のため従来と同等のサポートが難しくなったとの報告があった。これを受けて会長、副会長、事務局でシステム会社とも面談し、善後策を検討した。その結果、会員管理システム等のサポート業務を別会社に移行する必要が生じ、それに関わるスケジュールなどについても報告があった。理事会ではその方針を理解し、事務局が中心となって継続して対応することとなった。

第 9 号議案 プライバシーポリシー改定の件

GDPR（General Data Protection Regulation）が 5 月に施行されたため、プライバシーポリシーやシステムを改訂する必要が生じた。既に全会員に対し、本事項に対する日本地球惑星科学連合の対応方針について通知した。現在、事務局でアクションプランを制定しそれに基づいて準備を急いでいる。

8 月中に改訂の必要があるため、このまま事務局および末広国際コーディネーターに一任して改訂することが認められた。

第 10 号議案 その他（アースサイエンスウィークジャパン共催の件）

アースサイエンスウィークジャパンの共催申請について審議した。委員派遣に伴う旅費交通費の予算措置は既に終了している。これを承認した。

7. 報告事項

1. 川幡穂高代表理事職務報告

2018 大会後、参加者からアンケートを取った。今回は具体的なコメント一覧を示すにとどまるが、今後重要事項については、各委員会も含めて対応を検討することになるであろうとの発言があった。

AOGS との MOU を改訂することについて報告があった。条文の 7 については見直しの必要があるため、次回の更新時には削除を検討するよう指摘があった。

2. 田近英一理事（広報普及担当）職務報告

広報関連活動について報告があった。理事会新体制やフェローの最新の JGL の紹介があった。パブリックセッションのガイドラインの改訂を検討中である旨報告があった。

3. 中村正人理事（財務担当）職務報告

2018 年大会の収支について報告があった。予算よりも収支差額が小さかったため、より一層の節約をお願いしたいとの依頼があった。

非日本在住者への旅費の支払い方法について説明があり、そのアナウンスを発信することになった。

現在までの寄附金受け入れ状況について報告があるとともに、積極的に寄付金の受け入れを行っていくことで合意した。

4. 古村孝志理事（ジオエシックス担当）職務報告

ジオエシックス対応準備について報告があった。今後タスクフォースを作って検討していく。広報普及委員会、災害対応委員会、ダイバーシティ推進委員会、情報システム委員会、他代議員にも協力を仰いで進めていく予定である。連合でいくつかポリシーを制定することを検討している。

5. 西 弘嗣理事（総務担当）職務報告

連合が承認した協賛、後援ならびにサポートレターについて報告があった。今後、サポートレター発行にあたっては、JpGU からの依頼も同時に伝えとよいのではという提案があった。

また、「今後の地球観測グランドデザイン」へのコメントの集約状況について報告があった。

委員会及び小委員会に関する規則について確認した。委員会委員は 5 月の任期終了から次の理事会にて新委員が承認されるまでは任期とみなすこと、また小委員会について、設置は理事会承認事項であるが、委員構成等は委員会承認事項であり、任期も委員会と一致する必要はないとの見解が報告された。

6. 大会運営委員会活動報告

大会運営委員会の活動状況について報告があった。2019 年大会の委員体制について報告があった。プログラムに関する変更点について報告があり、2019 年大会は EJ セッションを廃止し、E セッションと J セッションのみとする。また、一人当たりの発表数の制限や投稿者を筆頭著者かつ発表者として、また不採択理由の改訂についても報告があった。

また、大会時参加者対応の問題点について報告があり、各受付カウンターでのセキュリティを高めること、また ID とパスワードがわからない参加者へのチケット代理発行、代理参加登録を有償にて行うとの報告があった。

また、国外及び国内からの参加者でクレジット決済ができない場合は、振り込み対応を有償で行うことにした。有償化については収益目的ではなく、個人情報の保護、円滑な大会運営の確保を目的としており、必要経費のみを受益者に負担してもらうための措置である。所定の手続きで支払いや参加登録を行う参加者については、これまで通り特別な費用は発生しない。

7. 情報システム委員会活動報告

情報システム委員会の活動報告があった。MyJpGU について、予算や仕様の変更により、終了の方向で検討している。MyJpGU で用いている Orcid の会員 API については、Society to Orcid というサービスに移行しての利用を予定している。

8. グローバル戦略委員会活動報告

グローバル戦略委員会の活動報告があった。AOGS へのブース出展の報告があった。これまでは方針の策定等が主であったが、今後は特に代議員なども含めて、中堅の研究者を委員会に迎え、体制を変更していく方針である。新たな参加者の獲得や自然災害分野への注力など、新たな動きを計画している。

9. 教育検討委員会活動報告

教育検討委員会の活動報告があった。教員免許更新講習の準備状況、地学・地理オリンピックの準備・実施状況について、教育国際対応小委員会の活動状況について、連合パブリックセッションの活動について研究集会「地学教育の展望—来るべき南海トラフ地震に備えて—」について報告があった。

国際地学教育機関の次回 2022 年大会の開催地が日本に決まったことが紹介された。

10. ジャーナル編集委員会活動報告

ジャーナル編集委員会の活動報告があった。インパクトファクター (2.52) を取得したことが報告された。論文出版・編集状況について、編集会議の開催について報告があった。

11. 顕彰委員会活動報告

2018 年大会の学生優秀発表賞受賞者について報告があった。また、旅費補助の対象者のアンケートの抜粋が紹介された。

12. ダイバーシティ推進委員会

ダイバーシティ推進委員会の活動報告があった。2018 年大会時の保育室利用について報告があった。ハラスメントなどについては、今後ジオエシックスなどの TF と連携すると効果的な対応ができるのではないか、とのコメントがあった。

13. 日本学術会議についての報告

日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会および初等中等教育検討小委員会の活動について紹介があった。提言を発出することを目標として、議論を進めている。

また、全国地惑関係学科専攻へのアンケートについても紹介があった。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後 16 時 40 分)
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成 30 年 7 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 3 回理事会

出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	阿部	なつ江	印
出席理事	市川	洋	印
出席理事	井出	哲	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	正人	印

出席理事	中村	昭子	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	村山	泰啓	印
出席監事	鈴木	善和	印
出席監事	氷見山	幸夫	印

入会会員

個人情報_の為非公開とする

平成30年度会員数推移

正会員						准会員						大会ID				AGU会員				
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数
3月末現在						8184						956				518				1572
4月	140	77	1		2	8398	71	77			6	944	82			600	6	1		1577
5月	216	60	1		1	8672	263	60	1		9	1137	530		4	1126	19			1596
6月	0			789	1	7882	1					1138	0			1126	2			1598
7月	4		5			7881	0				1	1137	0			1126	5			1603
8月	2	-1	2		1	7879	1	-1				1139			1120	6	20			1623
9月25日	6	2	5			7882	2	2			1	1138	6			12	8	2		1629
10月						7882						1138				12				1629
11月						7882						1138				12				1629
12月						7882						1138				12				1629
1月						7882						1138				12				1629
2月						7882						1138				12				1629
3月						7882						1138				12				1629
	368	138	14	789	5		338	138	1	0	17		618	0	1124		60	3	0	

1名、正会員から准会員へ変更

変更
准会員から正会員へ
正会員から准会員へ

2018/9/25 正会員
7882 名

准会員
1138 名

大会ID
12 名

AGU会員
1629 名

	団体会員			賛助会員		
	入会	退会	現会員数	入会	退会	現会員数
3月末現在			49			7
4月			49			7
5月			49			7
6月			49			7
7月			49			7
8月	1		50			7
9月			50			7
10月						
11月						
12月						
1月						
2月						
3月						
	1	0	50	0	0	7

全ID	
3月末現在	11,230 名
4月	11,519 名
5月	12,531 名
6月	11,744 名
7月	11,747 名
8月	10,647 名
9月25日	10,661 名
10月	名
11月	名
12月	名
1月	名
2月	名
3月	名

公益社団法人日本地球惑星科学連合入会申込書（団体会員）

2018 年 9 月 13 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 殿

日本地球惑星科学連合の設立目的及び事業に賛同し、団体会員として入会します。

団体名（学協会正式名称） 日本語名	日本有機地球化学会
英語名	The Japanese Association of Organic Geochemists

代表者 氏 名	（○会長 / 理事長）該当に○ （任期：2019 年 12 月まで） 鈴木 德行 （すずき のりゆき）
所属機関名・役職 （HP等公開）	北海道大学大学院理学研究院・教授
住 所（郵送物発送先）	〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
Email（学協会長ML登録）	suzu@sci.hokudai.ac.jp
学協会 URL	http://ogeochem.jp , J-Stage : https://www.jstage.jst.go.jp/browse/rog/-char/ja/
会員数	170 名（内訳 男 - 名、女 - 名）
設立年	西暦 1972 年
団体の活動内容 （地球惑星科学に関わる活動実績）	大気圏、水圏、岩石圏、生命圏、そして宇宙空間に分布する有機物（炭素化合物）を研究している研究者、教育者、学生が有機地球化学会の主な会員です。会員の多くは、地球惑星試料、環境試料中に含まれる有機化合物について、化学、地球・宇宙科学、生物科学を横断するユニークな研究を展開しています。本会は、学会誌の発行、シンポジウムの開催、ニュースレター、会員メーリングリストの活用などを通して、有機物の地球化学に関係する最新情報の交換や研究分野の発展を促すための活動を続けています。
発行物 名称（HP等で公開広報）	Researches in Organic Geochemistry（ROG） および NewsLetter
種類	（○ニュースレター誌 / ○学術誌 J-Stage） 該当に○
和文英文	（○和文誌 / ○英文誌） 該当に○
発行形態	（紙媒体 / 電子媒体 / ○両方） 該当に○
発行月	ROG（年1回発行） および NewsLetter（年2回発行）
発行部数	会員数相当 部（紙媒体の場合）
事務局 担当者氏名	稲場 土誌典 （いなば としのり）
住所	〒107-6332 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 国際石油開発帝石(株) 技術本部 評価技術ユニット内 日本有機地球化学会事務局
Email（事務局ML登録）	office@ogeochem.jp
TEL・FAX	TEL: 03-5572-0263 / FAX: 03-5572-0269
連合連絡委員 氏名	高野 淑識 （たかの よしのり）
所属機関名・役職	国立研究開発法人 海洋研究開発機構・主任研究員
Email（連絡委員ML登録）	takano@jamstec.go.jp

連合ニュースレター誌 （JGL）配布依頼可能部 数および依頼先住所	1 部 （事務局と異なる場合のみ） 〒237-0061 横須賀市夏島町2-15
備 考（連絡事項など）	2018年度 日本有機地球化学会理事会および総会で貴団体加盟を承認済み。

※団体会員の年会費は10,000円です。理事会での入会承認後に、別途請求書をお送りいたします。

教育検討委員会

No.	氏名	所属	選出学協会	備考
1	市川 洋	元海洋研究開発機構		理事 新任
2	木村 学	東京海洋大学		理事 新任
3	阿部 なつ江	海洋研究開発機構		理事 新任
4	畠山 正恒	聖光学院中学高等学校	日本気象学会	前委員長
5	西 弘嗣	東北大学		理事 前副委員長
6	根本 泰雄	桜美林大学自然科学系	日本地震学会	
7	瀧上 豊	関東学園大学	日本地球化学会	
8	宮嶋 敏	埼玉県立深谷第一高等学校	-	
9	阿部 國廣	島根半島・宍道湖鳴海(国引き)ジオパーク推進協議会	日本地質学会	
10	縫村 崇行	千葉科学大学		
11	三田 肇	福岡工業大学	生命の起原および進化学会	
12	西村 光史	東洋大学	資源地質学会	
13	石内 鉄平	宮城大学		
14	島津 弘	立正大学	日本地形学連合	
15	奥山 康子	産業技術総合研究所	日本鉱物科学会	
16	市川 温	京都大学	水文・水資源学会	
17	小西 啓之	大阪教育大学	日本雪氷学会	
18	山田 伸之	高知大学	物理探査学会	
19	南島 正重	東京都立両国高等学校	地震学会	
20	林 慶一	甲南大学理工学部	日本地学教育学会	
21	飯田 和明	埼玉県立浦和東高等学校	地学団体研究会	
22	小田 隆史	宮城教育大学	東北地理学会	
23	津野 宏	横浜国立大学	日本地球化学会	
24	白井 正明	首都大学東京	日本堆積学会	
25	相馬 宣和	産業技術総合研究所	日本地熱学会	新任
26	藤原 靖	神奈川県立向の岡工業高校	日本地学教育学会	新任
27	田口 康博	千葉県立銚子高校	日本地質学会	新任
28	中井 仁	小淵沢総合研究施設		新任
29	西山 忠男	熊本大学	(学術会議人材育成分科会幹事)	

退任	宮下 敦	成蹊中学高等学校	資源地質学会	
----	------	----------	--------	--

ダイバーシティ推進委員会

No.	氏名	所属	選出母体
1	小口 千明	埼玉大学	委員長 理事(人間圏)
2	阿部 なつ江	海洋研究開発機構	副委員長 固体地球科学セクション
3	坂野井 和代	駒澤大学	副委員長 地球電磁気・地球惑星圏学会(宇宙惑星)
4	安成 哲平	北海道大学	副委員長 大気水圏科学セクション
5	天野 敦子	産業技術総合研究所	日本堆積学会
6	新井 真由美	日本科学未来館	
7	大垣内 るみ	海洋研究開発機構	新任 地球環境史学会
8	小川 佳子	会津大学	日本惑星科学会
9	紺屋 恵子	海洋研究開発機構	日本雪氷学会
10	小杉 緑子	京都大学大学院	
11	陣 英克	電磁波計測研究所	宇宙惑星科学セクション
12	末吉 哲雄	国立極地研究所	連合広報普及委員
13	宋 苑瑞	法政大学経済学部	日本地理学会
14	高橋 幸弘	北海道大学	宇宙惑星科学セクションプレジデント
15	田中 佐千子	防災科学技術研究所	新任 日本地震学会
16	土屋 範芳	東北大学	鉱物科学会
17	津野 宏	横浜国立大学	日本地球化学会
18	戸崎 裕貴	産業技術総合研究所	新任 大気水圏科学セクション
19	南雲 直子	土木研究所	地球人間圏科学セクション
20	浜田 盛久	海洋研究開発機構	
21	濱村 奈津子	九州大学	地球生命科学セクション
22	原田 尚美	海洋研究開発機構	日本海洋学会
23	古市 剛久	北海道大学	地球人間圏科学セクション
24	藤光 康宏	九州大学	日本地熱学会
25	堀 利栄	愛媛大学	日本地質学会
26	前野 深	東京大学	固体地球科学セクション
27	松山 洋	首都大学東京	日本地理学会
28	宮下 由香里	産業技術総合研究所	日本地質学会
29	守屋 和佳	早稲田大学	地球生命科学セクション
30	山下 勝行	岡山大学	日本地球化学会
31	吉川 知里	海洋研究開発機構	地球生命科学セクション
32	若狭 幸	秋田大学	日本地形学連合
33	渡邊 誠一郎	名古屋大学	
新任	鈴木順子	海洋研究開発機構	気象学会
退任	鈴木 由希	早稲田大学	日本火山学会
退任	清野 直子	気象研究所	日本気象学会
退任	富樫 茂子	産業技術総合研究所	

環境災害対応委員会名簿

氏名	所属	役職	選出母体
1 松本 淳	首都大学東京	委員長	環境・災害担当理事
2 井出 哲	東京大学		環境・災害担当理事
3 小口 千明	埼玉大学		環境・災害担当理事 日本粘土学会
4 川畑 大作	産業技術総合研究所	副委員長	日本地質学会
5 佐藤 浩	早稲田大学		日本地理学会
6 北 和之	茨城大学		大気化学会
7 奥村 晃史	広島大学		先期委員長
8 竹村 貴人	日本大学		日本応用地質学会
9 井口 隆	防災科学技術研究所		日本応用地質学会
10 千葉 達朗	(株)アジア航測		日本火山学会
11 高木 朗充	気象庁気象研究所		日本火山学会
12 秋吉 英治	国立環境研究所		日本気象学会
13 小司 禎教	気象庁 気象研究所		日本気象学会
14 葛葉 泰久	三重大学		水文・水資源学会
15 河島 克久	新潟大学		日本雪氷学会
16 松本 弾	産業技術総合研究所		日本堆積学会
17 宮地 良典	産業技術総合研究所		地学団体研究会
18 山本 裕二	高知大学		地球電磁気・地球惑星圏学会
19 松島 政貴	東京工業大学	副委員長	地球電磁気・地球惑星圏学会
20 小荒井 衛	茨城大学		日本地質学会
21 柳澤 教雄	産業技術総合研究所		日本地熱学会
22 宇根 寛	国土地理院		日本地図学会
23 浅野 敏久	広島大学		地理科学学会
24 後藤 真太郎	立正大学		地理情報システム学会
25 小荒井 衛	茨城大学		東京地学協会
26 村山 良之	山形大学		東北地理学会
27 大月 義徳	東北大学		東北地理学会
28 作野 裕司	広島大学		日本リモートセンシング学会
29 卜部 厚志	新潟大学		日本第四紀学会
30 鈴木 正哉	産業技術総合研究所		日本鉱物科学会
31 吉見 雅行	産業技術総合研究所		日本活断層学会
32 松島 信一	京都大学		日本地震学会/日本自然災害学会(新)
33 林 武司	秋田大学		日本水文科学会/日本地下水学会
34 青木 久	東京学芸大学		日本地理教育学会
35 北村 晃寿	静岡大学		日本古生物学会/地球環境史学会
36 福士 圭介	金沢大学		日本地球化学会
37 高橋 幸弘	北海道大学		宇宙惑星科学セクションプレジデント・連携体幹事
新任 松四 雄騎	京都大学防災研究所		日本地形学連合
新任 田中 茂信	京都大学防災研究所		日本自然災害学会

地球惑星科学振興西田賞規則（改定案）

2014 年 4 月 28 日 理事会制定

（趣旨）

第 1 条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）が「地球惑星科学振興西田賞」により、地球惑星科学の分野において国際的に高い評価を得ている優れた中堅研究者を表彰する為に必要な事項を定めるものである。本賞の名称は西田篤弘会員のご提案と寄付金 5,000 万円により本賞を維持することに由来する。

（受賞者の要件）

第 2 条 受賞者は、次の各号に該当するものとする。

- (1) 審査年度の 4 月 1 日時点において 45 歳未満である者。
- (2) 地球惑星科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ、国際的に高い評価を得ている者。

（選考・受賞者数）

第 3 条 受賞者の選考は隔年で行ない、選考毎に 10 件以内を選ぶ。

2 受賞者数の配分においてはセクションの規模を考慮する。

（推薦）

第 4 条 選考対象は他薦または自薦による候補者とする。候補者は会員・非会員を問わない。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることができる。他薦の場合は推薦者 1 名が、自薦の場合は本人が、以下の内容が記載された推薦書類（任意書式）をもって会長に推薦するものとする。

〔推薦書類の構成〕

- (1) 候補者の名前、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）
- (2) 候補者の経歴、受賞歴
- (3) 査読付き論文リストおよび主要な論文 5 編の別刷り
- (4) 推薦理由書（A 4 で 6 ページ以内、日本語あるいは英語）
自薦の場合は本人が、他薦の場合は推薦者が作成する。
- (5) 2 通のサポートレター（自薦の場合は本人以外の 2 名、他薦の場合は推薦者以外の 2 名が、日本語あるいは英語により作成する。いずれの場合もサポートレターを作成する 2 名については会員・非会員を問わない。）
- (6) 他薦の場合は推薦者の氏名と連絡先（住所、電話番号、メールアドレスなど）

2 推薦書類の MS Word ファイルとその PDF を日本地球惑星科学振興西田賞事務局にメール

にて送付する事とする。

3 推薦者は、本人に授賞の意志があることを事前に確認しなければならない。

(審査委員会)

第 5 条 理事会は、地球惑星科学振興西田賞審査委員会（以下、「審査委員会」という。）を設置し、推薦された候補者の中から受賞者を選考する。

2 審査委員会に関する規則は別に定める。

(授与)

第 6 条 理事会は、審査委員会からの選考結果を受け、受賞者を認定する。

2 会長は表彰式において受賞者に賞状を授与する。

3 副賞として受賞者に 1 件あたり 50 万円を贈る。原資は地球惑星科学振興西田賞特別会計とする。

(推薦・審査の実施時期)

第 7 条 候補者の推薦及び審査の時期は理事会が定める日程をもって行う。

(規定の改廃)

第 8 条 この規定の改廃は、理事会の決議を必要とする。

附則

(1) この規則は、2014 年 4 月 28 日から施行する。

(2) 本賞の授賞は 2014 年度から開始し、以降、隔年（西暦の偶数年度）にて行う。

(3) 本賞の授賞式は選考年度の翌年に行う。

2014 年 4 月 28 日 理事会制定

2014 年 6 月 2 日 理事会改正

2014 年 12 月 8 日 理事会改正

2017 年 7 月 21 日 理事会改正

2018 年 9 月 28 日 理事会改正

地球惑星科学振興西田賞規則 修正前	地球惑星科学振興西田賞規則 修正(案)
趣旨) 第1条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合(以下、「連合」という。)が「地球惑星科学振興西田賞」により、地球惑星科学の分野において国際的に高い評価を得ている優れた中堅研究者を表彰する為に必要な事項を定めるものである。本賞の名称は西田篤弘会員のご提案と寄付金により本賞を維持することに由来する	(趣旨) 第1条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合(以下、「連合」という。)が「地球惑星科学振興西田賞」により、地球惑星科学の分野において国際的に高い評価を得ている優れた中堅研究者を表彰する為に必要な事項を定めるものである。本賞の名称は西田篤弘会員のご提案と寄付金 5,000万円 により本賞を維持することに由来する
附則 (1)この規則は、2014年4月28日から施行する。 (2)本賞の授賞は2014年度から開始し、以降、隔年(西暦の偶数年度)にて行う。 (3)本賞の授賞式は選考年度の翌年に行う。 2014年4月28日 理事会制定 2014年6月2日 理事会改正 2014年12月8日 理事会改正 2017年7月21日 理事会改正	附則 (1)この規則は、2014年4月28日から施行する。 (2)本賞の授賞は2014年度から開始し、以降、隔年(西暦の偶数年度)にて行う。 (3)本賞の授賞式は選考年度の翌年に行う。 2014年4月28日 理事会制定 2014年6月2日 理事会改正 2014年12月8日 理事会改正 2017年7月21日 理事会改正 2018年9月28日 理事会改正

地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱規則（改定案）

2016 年 5 月 23 日理事会制定

（総 則）

第 1 条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下「当連合」という。）の、地球惑星科学振興西田賞資金（以下「資金」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定めるものである。

（目 的）

第 2 条 この資金は、当連合の公益事業である、わが国の地球科学会を代表しての関連科学の振興・普及活動と社会貢献に資するための顕彰制度の一である、地球惑星科学振興西田賞を推進するための事業費に充てることを目的とする。

（資金計画）

第 3 条 資金の積立てについては、西田篤弘会員による寄附金を財源として平成 27 年度、平成 28 年度、平成 29 年度、平成 30 年度、平成 31 年度、平成 32 年度、平成 33 年度、平成 34 年度、平成 35 年度に毎年 500 万円を積立てる。

2 資金の取り崩しについては、平成 28 年度に 500 万円、平成 30 年度に 500 万円、平成 32 年度に 500 万円、平成 34 年度に 500 万円、平成 36 年度に 500 万円、平成 38 年度に 500 万円、平成 40 年度に 500 万円、平成 42 年度に 500 万円、平成 44 年度に 500 万円、を取り崩し、第 2 条の目的に適う事業費に充てる。

3 この取扱規則が平成 28 年から施行された為、積立の開始が平成 27 年度からとなったが、平成 26 年度に総額 5,000 万円の寄附金から表彰に 500 万円使用した。

4 寄附金の総額は 5,000 万円であるが、3 によりこの資金の積立限度額は 4,500 万円とする。

（資金の運用方法）

第 4 条 この資金は特定費用準備資金とし、元本の安全性に配慮して、定期預金で運用する。

（資金の支出）

第 5 条 本資金は、地球惑星科学振興西田賞推進の目的に、以下に該当する事業に対して支出することができる。

1. 地球惑星科学振興西田賞副賞

(資金活用の発議・承認)

第6条 第5条に関しては、当連合の顕彰委員会からの発議により理事会の承認を必要とする。

(資金の維持・管理)

第7条 この資金は第2条の目的を達成するため、善良の管理者の注意をもって維持・管理をしなければならない。

2 この資金は他の資金と明確に区分して管理しなければならない。

3 この資金は第2条及び5条に規定する事業目的以外に使用することはできない。

やむを得ず事業目的以外に使用する場合には、理事会にて過半数の出席のもとで、3分の2以上の議決を必要とする。

(事業報告)

第8条 会長は事業内容を年度毎にとりまとめ、社員総会で報告する。

(規則の改廃)

第9条 本規則は、理事会の決議により改廃することができる。

附則

本規則は、平成28年5月23日から施行する。

2018年9月28日 理事会改正

地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱規則 修正前	地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱規則 修正(案)
(目的) 第2条 この資金は、当連合の公益事業である、わが国の地球科学会を代表しての関連科学の振興・普及活動と社会貢献に資するための顕彰制度の一である、地球惑星科学振興西田賞を推進するための事業費に充てることを目的とする。 (資金計画) 第3条 この資金は、寄附金を財源として平成27年度に500万円、平成28年度に500万円、平成29年度に500万円、平成30年度に500万円、平成31年度に500万円、平成32年度に500万円、平成33年度に500万円、平成34年度に500万円、平成35年度に500万円を積立てる。 2 この資金は、平成28年度に500万円、平成30年度に500万円、平成32年度に500万円、平成34年度に500万円、平成36年度に500万円、平成38年度に500万円、平成40年度に500万円、平成42年度に500万円、平成44年度に500万円、を取り崩し、第2条の目的に適う事業費に充てる。 3 この資金の積立限度額は4,500万円とする。	(目的) 第2条 この資金は、当連合の公益事業である、わが国の地球科学会を代表しての関連科学の振興・普及活動と社会貢献に資するための顕彰制度の一である、地球惑星科学振興西田賞を推進するための事業費に充てることを目的とする。 (資金計画) 第3条 資金の積立てについては、西田篤弘会員による寄附金を財源として平成27年度、平成28年度、平成29年度、平成30年度、平成31年度、平成32年度、平成33年度、平成34年度、平成35年度に毎年500万円を積立てる。 2 資金の取り崩しについては、平成28年度に500万円、平成30年度に500万円、平成32年度に500万円、平成34年度に500万円、平成36年度に500万円、平成38年度に500万円、平成40年度に500万円、平成42年度に500万円、平成44年度に500万円、を取り崩し、第2条の目的に適う事業費に充てる。 3 この取扱規則が平成28年から施行された為、積立の開始が平成27年度からとなったが、平成26年度に総額5,000万円の寄付金から表彰に500万円使用した。 4 寄附金の総額は5,000万円であるが、3によりこの資金の積立限度額は4,500万円とする。
附則 本規則は、平成28年5月23日から施行する。	附則 本規則は、平成28年5月23日から施行する。 平成30年9月28日 理事会改正

定期大会参加促進事業積立資金規則（変更案）

2018年3月27日理事会制定

（総 則）

第1条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下「当連合」という。）の、学生旅費補助特定費用準備資金（以下「資金」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定めるものである。

（目 的・施行期間）

第2条 この資金は大会参加の学生旅費支援事業の必要性を検証するために、2018年から3カ年に限って試行する。

2 理事会による事業評価を経て、恒常的な事業への判断を行う。

（資金計画）

第3条 この資金は、当連合の平成29年度の剰余金の一部を財源として平成29年度に1,200万円を積立てる。なお、この資金の積立限度額は、1,200万円とする。

2 この資金は、平成30年度に400万円、平成31年度に400万円、平成32年度に400万円を取り崩し、第2条の目的に適う事業費に充てる。

（資金の運用方法）

第4条 この資金は特定費用準備資金とし、元本の安全性に配慮して、定期預金で運用する。

（資金の支出）

第5条 本資金は、日本地球惑星科学連合大会に参加する学生旅費補助の目的の為に、以下の一項に該当する事業に対して支出することが出来る。

1. 日本地球惑星科学連合2018年大会
2. 日本地球惑星科学連合2019年大会
3. 日本地球惑星科学連合2020年大会

（資金活用の発議・承認）

第6条 第5条に関しては、当連合の大会運営委員会からの発議により理事会の承認を必要とする。

（資金の維持・管理）

第7条 この資金は第2条の目的を達成するため、善良の管理者の注意をもって維持・管理をしなければならない。

- 2 この資金は他の資金と明確に区分して管理しなければならない。
- 3 この資金は第2条及び5条に規定する事業目的以外に使用することはできない。やむを得ず事業目的以外に使用する場合には、理事会にて過半数の出席のもとで、3分の2以上の議決を必要とする。

（事業報告）

第8条 会長は事業内容を年度毎にとりまとめ、社員総会で報告する。

（規則の改廃）

第9条 本規則は、理事会の決議により改廃することができる。

附則

本規則は、平成30年4月1日から施行する。

平成30年9月28日 理事会改

学生旅費補助特定費用準備資金取扱規則	学生旅費補助特定費用準備資金取扱規則 修正案
名称: 学生旅費補助特定費用準備資金取扱規則	名称: 定期大会参加促進事業積立資金取扱規則
附則 本規則は、平成30年4月1日から施行する。	附則 本規則は、平成30年4月1日から施行する。 平成30.年9月28日 理事会改正

別記

2018 年 9 月 7 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 御中

共 催 ・ 協 賛 ・ 後 援 承 認 申 請 書

申請団体名：固体地球科学セクション・ハードロック

掘削科学フォーカスグループ

申請者住所：愛知県名古屋市千種区不老町・名古屋大学

申請者名：道林克禎(フォーカスグループ・委員長)

行事名（英訳名）	SAKIGAKE-JpGU Hard-rock drilling Focus Group kick-off workshop () 会議の種類：(☐ 国内会議 ☒ 国際会議)
主催者名	金沢大学
開催日	2018年11月6日（火）～ 2018年11月7日（水）
開催場所、所在地	場所：金沢大学 所在地：石川県金沢市角間町
申請の種類	☒ 共催 （企画又は運営に参画し共同で開催する） ☐ 協賛 （趣旨に賛同し、必要に応じて金銭的・人的支援をする） ☐ 後援 （趣旨に賛同し、必要に応じて人的支援をする） ☐ その他 （ ）
金銭・人的援助の有無	無・有（具体的に：学生参加者等への国内旅費支援に 20 万円、フォーカスグループ活動の予算として計上済み）
行事趣旨	日本がリードして進めているマントル掘削プロジェクトを実現するために、科学目標の立案、国際コミュニティとの連携、次世代研究者育成を目的とした国際ワークショップを開催する。
共催、協賛、後援等団体名(申請中も含む)	後援：日本地球掘削科学コンソーシアム（申請中）
希望する共催・協賛・後援の名称	☐ 公益社団法人日本地球惑星科学連合 その他（JpGU・固体地球科学セクション・ハードロック掘削科学フォーカスグループ）

連絡先 (受理通知等送付先)	所在地：〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2-15 団体名：国立研究開発法人海洋研究開発機構・掘削科学研究センター 担当者名： 小野重明 TEL：046-867-9631 FAX：046-867-9625 E-mail： sono@jamstec.go.jp
参加費等	(☒ 無料 ☐ 有料) <u>参加予定人数 80 人</u> 会員 団体 円 個人 円 学生 円 非会員 団体 円 個人 円 学生 円
会議のホームページ	https://www.mantledrilling.org/hrdkj

*選択する項目については囲むか、チェックをお入れ下さい。

*会議・行事の趣旨のわかる、開催案内、プログラム、組織委員会名簿、会議全体の予算、開催案内、プログラム等を添付して申し込み下さい。

*原則として、経費や人的負担はいたしかねますが、必要あれば妥当性を判断しますので希望をお知らせください。

*公益社団法人地球惑星科学連合の名称のほか、同セッション名や委員会名での共催・協賛・後援ができますので、ご希望をお知らせ下さい。

*2013年12月19日理事会書式改正

SAKIGAKE-JpGU HARD ROCK DRILLING Focus Group Kick-off Workop

6th-7th November 2018
in Kanazawa, Japan



海洋試料解析と採取計画による国際的の海洋プレート/海洋環境科学拠点形成



国際深海科学掘削計画 (IODP) におけるリーディングプロジェクトである「マントル掘削」の実現にむけた国際ワークショップを開催いたします。
マントル掘削の候補地のひとつである「ハワイ沖」での構造探査調査結果、及び関連する近年の掘削プロジェクトや海洋底の物理探査・岩石の研究成果についての議論をもとに、新たなハードロック掘削の具体的な科学目標を構築することを目的とします。欧米から主要研究者を招聘し、国際的な協力体制について、これまでの現状確認と今後の計画についての議論を行います。
継続的かつ拡張的な国際的協力体制の構築のためには、幅広い分野の研究者さらには学生・若手研究者の参画が必要不可欠です。
関連分野並びに興味のある方々、皆様の参加をお待ちしております。

日程・会場

2018年11月6-7日
金沢大学
自然科学研究科講義棟
(金沢市)
アクセス

参加登録

下記へご連絡ください。
森下知晃 (金沢大学)
moripta@staff.kanazawa-u.ac.jp

会議

第1日目
第2日目

プログラム (仮)

- 11月6日 (火曜日) 日本語による発表・議論
ハワイ沖の掘削の構造探査調査結果
関連する海洋底岩石の調査・研究
ハードロック掘削の研究計画の整理
科学目標の構築
- 11月7日 (水曜日) 英語セッション
「ハードロック掘削プロポーザル作成に向けて」
国際連携の現状確認・次期計画

会場アクセス

準備中

ワークショップ準備・実行委員

森下 知晃 (金沢大学)
小野 重明 (JAMSTEC)
道林 克慎 (名古屋大学)

Mantle Drilling

© 2017 Copyright HIRDFG. All Rights Reserved.
- Wix.com で作成されたホームページです。

収支予算

収入

項目	金額	備考
主催者	1,600,000 円	金沢大学先魁プロジェクト
共催者	200,000 円	日本地球惑星科学連合
後援者（申請中）	100,000 円	日本地球掘削科学コンソーシアム
合計	1,900,000 円	

支出

項目	金額	備考
会場費 1	100,000 円	日本地球掘削科学コンソーシアムからの支出
会場費 2、雑費	100,000 円	金沢大学先魁プロジェクトからの支出
旅費 1（外国人 5 名分）	1,500,000 円	金沢大学先魁プロジェクトからの支出
旅費 2（学生 5 名分）	200,000 円	日本地球惑星科学連からの支出
合計	1,900,000 円	

日本地球惑星科学連合からの支出については、固体地球科学セクションボードにおいて申請している予算項目（掘削 FG（フォーカスグループ）キックオフ会合）から支出予定です。詳細は添付の資料のエクセルファイルでご確認ください。

2018年度 JpGU 第一回財務委員会

場所：日本地球惑星科学連合事務局

日時：2018年9月20日10:00-12:00

出席者：中村正人、井出哲、北台紀夫、河宮未知生、山田育穂

オブザーバー:渡辺信子（事務局）、浜野洋三（大会運営委員会）

議事次第

1. 自己紹介
2. 過去数年間の財務状況の推移（中村）（資料1, 2）
3. 2019年度の予算の削減計画（井出）（資料3）
4. 議論
 - （ア）科研費の無い状況での財務のあり方について
 - （イ）適正な一般正味財産残高について
 - （ウ）予算削減計画について
 - （エ）適正な事務経費のあり方について
 - （オ）その他（海外からの送金の仕方など）
5. 次回以降の日程の調整、議事の確認

資料 1、2 から読み取れること

1. 経常収益、経常費用ともに H24 から H29 にかけてうなぎ登りである。これは大会の規模の増大という要因とともに受け取り補助金（科研費）に支えられていた部分が多い。
2. 当期経常増減額を見て判るとおり、科研費の無くなる H30（予算）では、経常費用の節約分を経常収益の減額が上回り 21 M 円程度の赤字となる。
 - 更なる経常費用の削減（資料 3 にて提案）を行い、場合によっては収入の増加を画策しなければ一般正味期末残高を数年で食い潰すであろう。ご議論頂きたい。
3. 事務経費の割合は事業費に隠されている部分を抜き出して計算したところ全体の 20 %程度と、JpGU の活動規模にスライドしている。
 - 20 %で十分であるかという点をご議論いただきたい。
4. 正味財産は年度のうちでも 60 M 円の振れ幅が有る（資料 2）。4 - 6 月には大会参加費、大会収入、会費などが振り込まれる（ただし、クレジットカード使用による振込までの時間遅延が生じている）が、それ以降は大会諸経費の支払い、大会以外のセッション、委員会経費等の出費があり、最大 21 M 円の持ち出しとなる。これを下回る一般正味期末残高しか年度当初に残っていない場合、財政は破綻（破産）する事になる。
 - 一般正味期末残高をここ数年の間、何処まで下げて良いかご議論願いたい。
 - 今後 30 年を見据えて一般正味期末残高をどの程度のレベルに持っていくべきかをご議論願いたい。

正味財産増減計算書									
公益目的事業会計									
(単位:円)									
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用利益	1,253	1,250	1,250	1,250	1,253	500	1,600		
特定資産運用利益	0	1,775	4,490	3,500	255	885	2,000		
受取会費	9,998,000	11,166,000	11,581,000	13,160,000	11,419,000	12,225,000	12,300,000		
事業収益	71,210,800	76,273,450	96,685,200	103,923,270	142,565,783	172,161,428	161,796,257		
受取補助金等	0	24,318,264	36,038,260	35,238,260	35,642,802	56,938,260	638,260		
受取寄付金	0	5,002,000	747,000	108,398	3,129,000	5,300,000	5,300,000		
雑収益	78,643	87,308	14,061	108,398	45,710	326,212	21,000		
経常収益計	81,288,696	111,848,047	149,326,261	153,181,679	196,799,803	244,781,285	180,259,117		
(2) 経常費用									
事業費	59,593,880	98,259,100	155,230,094	141,183,723	177,166,362	234,460,791	190,470,320		
管理費	9,923,764	8,375,217	10,471,237	8,499,201	10,143,498	9,038,752	11,102,000		
経常費用計	69,517,644	106,634,317	165,701,331	149,682,924	187,309,860	243,499,543	201,572,320		
事務経費	10,666,131	17,784,405	30,319,898	34,456,473	40,740,069	46,547,446	36,530,830		
事務以外の経費	58,851,513	88,849,912	135,381,433	115,226,451	146,569,791	196,952,097	165,041,490		
比率	15%	17%	18%	23%	22%	19%	18%		
評価損益等調整額	11,771,052	5,213,730	-16,375,070	3,498,755	9,489,943	1,281,742	-21,313,203		
損益計算計	0	0	0	0	0	0	0		
当期経常増減額	11,771,052	5,213,730	-16,375,070	3,498,755	9,489,943	1,281,742	-21,313,203		
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0		
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0		
(2) 経常外費用									
過年度退職給付金	0	0	0	0	0	3,084,000			
経常外費用計	0	0	0	0	0	3,084,000			
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	-3,084,000	0		
当期一般正味財産増減額	11,771,052	5,213,730	-16,375,070	3,498,755	9,489,943	-1,802,258	-21,313,203		
一般正味財産期首残高	69,742,286	81,513,338	86,727,068	70,351,998	73,850,753	83,340,696	81,538,438		
一般正味財産期末残高	81,513,338	86,727,068	70,351,998	73,850,753	83,340,696	81,538,438	60,225,235		
II 指定正味財産増減の部									
受取補助金等		27,900,000	35,200,000	33,800,000	34,804,542	42,100,000	0		
受取寄付金		5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000		
一般正味財産への寄附額		-23,918,264	-41,038,260	-34,638,260	-40,642,802	-42,938,260			
当期指定正味財産増減額		3,981,736	-838,260	4,161,740	-838,260	4,161,740			
指定正味財産期首残高		0	3,981,736	3,143,476	7,305,216	6,466,956	10,628,696		
指定正味財産期末残高		3,981,736	3,143,476	7,305,216	6,466,956	10,628,696			
III 正味財産期末残高	81,513,338	90,708,804	73,495,474	81,155,969	89,807,652	92,167,134			

(1)経常収益

(2)経常費用

事務経費の割合

一般正味財産期末残高

経常収益と経常費用の差の月ごとの推移（H29の場合）												
公益目的事業会計 科目	（単位：円）											
	H29年度 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
（1）経常収益												
基本財産運用益	500	0	0	0	0	0	0	0	0	500	0	0
特定資産運用益	885	75	75	75	75	75	75	73	75	75	75	68
受取会費	12,225,000	8,491,000	1,167,000	87,000	69,000	83,000	71,000	267,000	82,000	34,000	67,000	283,000
事業収益	172,161,428	61,725,490	32,090,588	70,971,520	2,189,430	1,237,680	878,954	169,500	185,760	22,680	150,000	1,278,446
受取補助金等	56,100,000	0	0	0	0	2,000,000	0	5,000,000	7,000,000	0	0	42,938,260
受取寄付金	3,129,000	6,000	0	15,000	60,000	0	9,000	3,018,000	0	0	0	21,000
雑収益	326,212	9	400	17,400	199,200	48,415	60,390	8	0	0	0	0
経常収益計	243,943,025	70,222,574	33,258,061	72,527,995	2,535,703	3,381,145	959,035	8,454,575	7,267,833	57,255	217,465	44,520,774
（2）経常費用												
事業費	234,460,791	24,124,228	55,412,372	64,353,782	28,693,932	8,548,494	4,696,778	4,893,877	9,800,464	2,889,893	4,463,721	19,518,752
管理費	9,038,752	102,034	1,068,424	982,591	769,295	613,392	804,693	1,067,944	249,734	243,649	322,435	702,599
経常費用計	243,499,543	24,226,262	56,480,796	65,336,373	29,463,227	9,161,886	5,301,471	5,961,821	10,050,198	3,133,542	4,786,156	20,221,351
H28残り	4月 末	5月 末	6月 末	7月 初	8月 末	9月 末	10月 末	11月 末	12月 末	1月 末	2月 末	3月 末
	¥0	¥45,996,312	¥22,773,577	¥29,965,199	¥3,037,675	¥-4,745,341	¥-6,665,667	¥-11,668,453	¥-11,127,591	¥-13,909,956	¥-21,554,934	¥2,744,489
財布の中身												
8月から2月までは連合の財布からの持ち出し、最大2100万円												
X0	¥45,996,312	¥22,773,577	¥29,965,199	¥3,037,675	¥-4,745,341	¥-6,665,667	¥-11,668,453	¥-11,127,591	¥-13,909,956	¥-16,986,249	¥-21,554,934	¥2,744,489
H28残り	4月 末	5月 末	6月 末	7月 初	8月 末	9月 末	10月 末	11月 末	12月 末	1月 末	2月 末	3月 末

今後の JpGU 財務方針案

骨子

JpGU は急激に規模を増大している。学術大会収益を担保とする学術大会はほぼ適正な予算と規模のバランスを保っている。一方会費収入を担保とする、学術大会以外の事業は、会費が据え置かれているにも関わらず、ジャーナル出版関連費用を H26-H29 年度の科研費補助金で賄っていたこともあり、やはり規模の拡大を見ている。しかし、H30 年度から科研費収入が無くなったことにより学術大会以外の事業の予算規模を科研費補助の存在しなかった段階にもどし、財政の正常化を図らなければならない。この正常化は単年度で達成しうるものではなく、複数年をかけて達成すべきものである

本文

JpGU は会費収入と学術大会収益(大会参加費と展示等の料金収入)によって、事業を行っている。その会計は受益者負担を原則とする。

学術大会収益は、基本的に学術大会のために使われる。連合は H26 年と H28 年に 2 回大会参加費を値上げした。その結果、学術大会収益は H24-25 年度に対して、80M (=8000 万) 円以上増加した。この予算を用いて学術大会は急激に規模を増大し、100M 円規模で国際的かつ快適な会場で開催できるようになった。

一方で、会費は据え置かれているために、H24-25 年度に対する会費収入の伸びは 1M 円程度にとどまっている。受益者負担の原則より学術大会に直接関係しない活動(セクション、委員会等)の予算は会費収入から支出することが適切であるにもかかわらず、近年、大会に直接関係しない経費も大幅に伸びている。その一因は H26 年度以降、毎年 35M 円程度入ってきていた科研費補助金にある。ジャーナル関連費用が科研費負担となり、財政上の余裕が出たために、セクション、委員会等の予算が増大したのである。広報普及、環境災害、ダイバーシティ、教育検討などの委員会予算は H24-25 年比で数倍になった。

委員会予算でも学術大会を盛り上げるための経費であれば、支出原則上問題はない。例えば、広報普及委員会が計上している NASA の展示関連の費用はこれにあたる。ジャーナル関連費用は H24-25 年は 7M 円程度であったが、科研費での運用の間に大幅に増えた。H30 年に科研費が打ち切られ、再び他の委員会

予算とともに計上することとなったが、様々な経費削減を検討した後でも16.5M 円を計上している。H30 年予算の大幅赤字は主にジャーナルを含むセッション・委員会予算の肥大化によるものである。

H31 年度以降の会計では、特に会費収入で賄うべきセッション、委員会予算を正常化する必要がある。以下セッション・委員会予算の各項目について、H24-25 年を基準としてその後の経費使用目的の妥当性を検討した適切な予算額を提案する。

具体的削減提案

① 大会運営委員会

H24-25 年 32.5-33.4M → H30 年 86.2M → 提案 81M 円

予算増加は学術大会収益によってなされているために、50M 円以上の増加は妥当にみえる。但し経費の一部は一般事業費にも分類されているので、それを含めると収益増加上に支出が増大している危険性が無視できない。特に H29 年の AGU との Joint 大会は千葉市などからの補助金がなければ開催できない規模であった。経費見直しの例外とすべきではない。会場係バイトの見直し、受益者負担の原則に反するプレジデンシャルレセプションの簡素化もしくは有料化、印刷プログラムの見直しなどで 5M 円程度の削減をしても、今年度同様に快適な大会を開催することは可能であろう。

② セクション予算（合計）

H24-25 年 2-2.5M → H30 年 4M → 提案 2.5M 円

5 セクション合わせて倍近く増加しているが、その中身は学術大会と異なる活動に使われる傾向にある。H24-25 年の予算要求ではその 6 割以上が学術大会への参加旅費補助であったが、H30 年の予算要求約 5M 円のうち、学術大会のための予算はわずか 2 割である。セッションの裁量を増やすことの意義はあるが、受益者負担の原則から考えて会費収入の増大が無い限り現状を維持することには理由が付けられない。

③ 広報普及委員会

H24-25 年 3.5-5.3M → H30 年 10.3M → 提案 7M 円

広報普及関連では JGL の発行経費がもっとも多い。不思議な点は H24 年予算と H30 年予算では、ほぼ同じ規模の印刷・編集・発送経費が概算要求ベースで 4.8M 円から 7.1M 円へと増大していることである。一方学術大会での映像記録・中継

や広報で 2.3M 円増大しているが、これは妥当な経費である。JGL の発行経費の見直しやアウトリーチ企画の縮小などで 3M 円程度の削減は可能だろう。

④ 環境災害対応委員会

H24-25 年 0.1M → H30 年 0.4M → 提案 0.2M 円

額は少ないが、着実に増加している。必ずしも学術大会に係る経費増加とは見られないので、一部に避けられない経費増大があったとしても、なるべく H24-25 年レベルに近づけるべきだろう。

⑤ ダイバーシティ推進委員会

H24-25 年 0.1-0.2M → H30 年 0.9M → 提案 0.2M 円

額は少ないが、急激に増加している。H30 年では保育委託費が 0.7M 計上されているが、この支出は受益者負担の原則に反する。それを除けば H24-25 年レベルと大きな違いはない。

⑥ 教育検討委員会

H24-25 年 1.2M → H30 年 3M → 提案 1.4M 円

2.5 倍に膨れ上がっている。例えば学術大会に関係ない委員会旅費だけで 1M 円以上増加する根拠は明らかでない。新たに教員免許講習経費(0.2M 円)などが計上されているのは妥当かもしれないが、これでも本来は会費収入で賄うべきものである。避けられない経費増大以外は、H24-25 年レベルに戻すべきであろう。

⑦ 情報システム委員会

H24-25 年 3.6-4.1M → H30 年 1.7M → 提案 0.2M 円

珍しく経費が減少している委員会であるが、その理由はかつて委員会予算に含まれていたシステム経費が一般事業費に移動したためである。旅費等の経費はむしろ増大している。ORCID 経費は学術大会関連かどうか微妙であるが、必要ならばシステム経費と同様に一般事業費とすべきである。本来必要な委員会予算は環境災害やダイバーシティ委員会並みであろう。

⑧ ジャーナル関連経費

H24-25 年 7.1-7.2M → H30 年 16.5M → 提案 7.5M 円

科研費採択直前の H25 年予算では、ジャーナル予算は出版 3M 円、人件費関連 2.5M 円、広報 1.2M 円、物品等 0.5M 円であった。科研費打ち切り後の削減の

結果、増大しているのは出版 8M 円、人件費関連 6.4M 円である。APC の見直しなどで早急に H24-25 年レベルに戻すことが必要である。または現在のレベルの支出を続けるとなれば、会費収入の値上げを行うのが適切である。

⑨ グローバル戦略委員会

H24-25 年 1.6-1.7M → H30 年 6.5M → 提案 6.0M 円

急激に増加した委員会予算であるが、学術大会の国際化にとって欠かせない取り組みであり、支出原則には合致する。但し広報活動に関する費用が多くを占めるので、緊縮財政の上では一定の削減が望ましい。

⑩ 顕彰委員会

H30 年 計 3.3M → 提案 計 2.0M 円

これらは H24-25 年には存在しなかった。学生賞は明らかに学術大会の活性化につながるものであり、支出に問題はほとんどない。しかしその他の賞の位置づけは簡単でない。セレモニーや受賞者による講演は学術大会を盛り上げるものとして位置づけることもできるだろうが、会費収入における運用も検討する必要があるだろう。経費の適正化も必要であり、例えば受賞者の旅費を負担するなどとは過剰なサービスである。

上記合計

H30 年 132.8M → 提案 108M 円

削減額 24.8M 円=2480 万円

その他

H24-27 年の間、予算総額は概ね会費と学術大会による純収入決算より 5M 円程度少ないレベルで推移してきた。H28-H30 年は、H29 年の赤字を覚悟した上で、3 年間でバランスをとるという目標だったので H28 年はさらに支出を少ないレベルに抑えた。そこから考えると H30 年は純収入 174M を基準として、予算を 165M 円程度に抑えるべきところが、193M 円となってしまった。この分のリカバリも含めて正常化するには、上記の削減計画でも十分ではないかもしれない。

いくつかの項目で説明している通り、経費の中には必要性は高いが本来学術大会とは直接関係なく、本来であれば会費収入で実施すべき項目が多い。社会的意義が高いものとしては教員免許講習などがあげられるし、ジャーナル関連経

費も本来この種のものである。提案のような予算削減ができないのなら、会費値上げを真剣に検討する必要がある。例えば 2020 年度の会費を現在の倍に設定すれば、10M 円程度の余裕が生じる。

支出削減だけでなく収入増加も検討すべきである。例えば大会参加費は大幅に値上げしたが、シニア料金は無料と設定されている。AGU、EGU、AOGS という連合が提携している海外の学会はどこでもシニア料金は学生料金と同額である。この設定変更によって 1-2M 円の収入増加が可能である。2019 年 5 月大会から早速改定すべきである。

以上

資料3 参考

単位百万円

収入	H24	H25	H26	H27	H28	H29(AGU)	H30	H31?
会費収入*	10.0	11.1	11.6	13.1	11.4	12.2	12.3	12.0
学術大会収益*	71.2	76.2	96.7	103.9	142.6	172.1	161.8	162.0
補助金*	0.0	24.3	36.0	35.2	35.6	56.9	0.8	0.0
寄付金※*	0.0	0.0	0.0	0.7	2.1	3.1	0.3	0.0
純収入	81.2	87.3	108.3	117.0	154.0	184.3	174.1	174.0
合計	81.2	111.6	144.3	152.9	191.7	244.3	175.2	174.0

支出	H24	H25	H26	H27	H28	H29(AGU)	H30	H31?
管理費*	9.9	8.4	10.5	8.5	10.1	9.0	11.1	11.0
一般事業費	15.0?	17.0	21.4	30.9	42.0	51.1	48.7	48.0
大会	32.5	33.4	46.5	49.0	68.3	118.8	86.2	81.0
セクション	2.0	2.5	4.5	2.5	2.5	4.3	4.0	2.5
広報普及	3.5	5.3	6.5	7.7	7.0	12.9	10.3	7.0
環境災害	0.1	0.1	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	0.2
ダイバーシティ	0.1	0.2	0.9	0.4	0.4	0.5	0.9	0.2
教育検討	1.2	1.2	1.4	1.3	2.0	3.0	3.0	1.4
情報シス	4.1	3.6	4.2	2.0	0.8	1.3	1.7	0.2
ジャーナル	7.1	7.2	4.7	4.0	5.0	5.0	16.5	7.5
グローバル	1.7	1.6	2.6	3.1	5.5	7.5	6.5	6.0
フェロー審査			0.4	1.0	0.9	0.9	1.1	0.5
西田賞審査※				1.0	0.5	0.0	0.7	0.0
学生賞				0.9	1.5	0.7	1.0	1.0
三宅賞							0.5	0.5
合計	77.2	80.5	103.8	112.6	146.9	215.4	192.6	167.0

※西田賞賞金除く

*決算より、他は予算より

参考：大会参加費

単位円

一般・割引なし	20,000	20,000	27,000	27,000	43,200	43,200	43,200	
会員・割引なし	13,000	13,000	22,000	22,000	30,240	30,240	30,240	
一般・事前割引	18,000	18,000	24,000	24,000	32,400	32,400	32,400	
会員・事前割引	11,000	11,000	16,000	16,000	22,680	22,680	22,680	

2018 年度 JpGU 第 1 回財務委員会 議事概要

場所：日本地球惑星科学連合事務局

日時：2018 年 9 月 20 日 10:00 – 12:00

出席者：中村正人、井出哲、北台紀夫、河宮未知生、山田育穂

オブザーバー：渡辺信子（事務局）、浜野洋三（大会運営委員会）

記録：井出哲

1. 自己紹介

2. 過去数年間の財務状況の推移（中村）（資料 1&2）

- ・連合の財産は 80M 円程度。事業収益を出せないルール。
- ・経常収益、経常費用ともに H24 から H29 にかけてうなぎ登り。大会規模の増大という要因と、多額の受け取り補助金（科研費）。
- ・H30 は科研費がない。経常費用を節約したが、経常収益の減額もあり、21M 円程度の赤字予定。今後更なる経常費用の削減、収入の増加がなければ財産は数年でなくなる。
- ・正味財産は年度のうちでも 60M 円の振れ幅で増減。4 月が最大(+40M)、2 月最小(-20M)。一時的にでもなくなると財政は破綻する。30 年程度の長期的な財政健全化を考える必要あり。
- ・事務経費（部屋代、人件費）の割合は全体の 20%程度。JpGU の活動規模にスライドしている。

3. 2019 年度の予算の削減計画（井出）（資料 3）

- ・最初に表の見方を説明し、項目ごとの提案をチェックした。
- ・大会：なるべく全員に関係する支出を残し、削るところは削る。
- ・セクション：元に戻す。
- ・広報：過去に一部を大会経費から切り替えた。JGL の見直し、特に他学会に配っている分の見直しで削減。
- ・環境災害：元に戻す。
- ・ダイバーシティ：保育費、見直しは必要だが 0 するかは要議論。
- ・情報システム：会議費以外削減。
- ・ジャーナル：既に 10M までの削減計画あり。もう一息か。
- ・グローバル：多少の見直しを検討。
- ・顕彰委員会：メダルの変更などの努力中。
- ・以上、提案通りならば約 25M の削減。それでも今後の大会開催計画を考えると

まだ足りないかもしれない。

- ・ 様々な活動を支援するため、会費の値上げは検討する価値がある。
- ・ 参加費は変えないが、シニア料金は見直しすべき。

4. 議論

- ・ 科研費の無い状況での財務のあり方について
連合は適正な予算の議論をもとに、厳しく削減していく状況に置かれている。
- ・ 適正な一般正味財産残高について
正常化の過程では、一時的に財産が減るのは避けられない。
早急に改善し、長期的には安定運用をめざす。
- ・ 予算削減計画について
まず財務から提案して、各セクション、委員会と調整していく。
- ・ 事務経費のあり方について
事務局の適切な規模を事務局とも協議し、対応出来る予算措置をしていく。
- ・ 適正な予算の使い方
現在のお金の流れは渡辺さんしか把握できない。例えば予算コードでの管理が望ましい
費目責任者をはっきりするべき。現在委員会には会計担当がい
ない。委員会とのヒアリングも必要。
- ・ 海外送金方法
海外から送金する人が増えるので対応を事務局、大会委員会で検討中。
実際にかかる手数料を実費として取るのはリーズナブル。財務委員会として承認する。
- ・ 会費値上げを検討するなら、団体会員の会費も検討の価値あり。
大会運営については今後数年の開催計画（財政面）を出す。

5. 次回以降の日程の調整、議事の確認

- ・ これから各委員会から要望を聞く

11月15日ヒヤリング&第2回財務委員会、予算決定

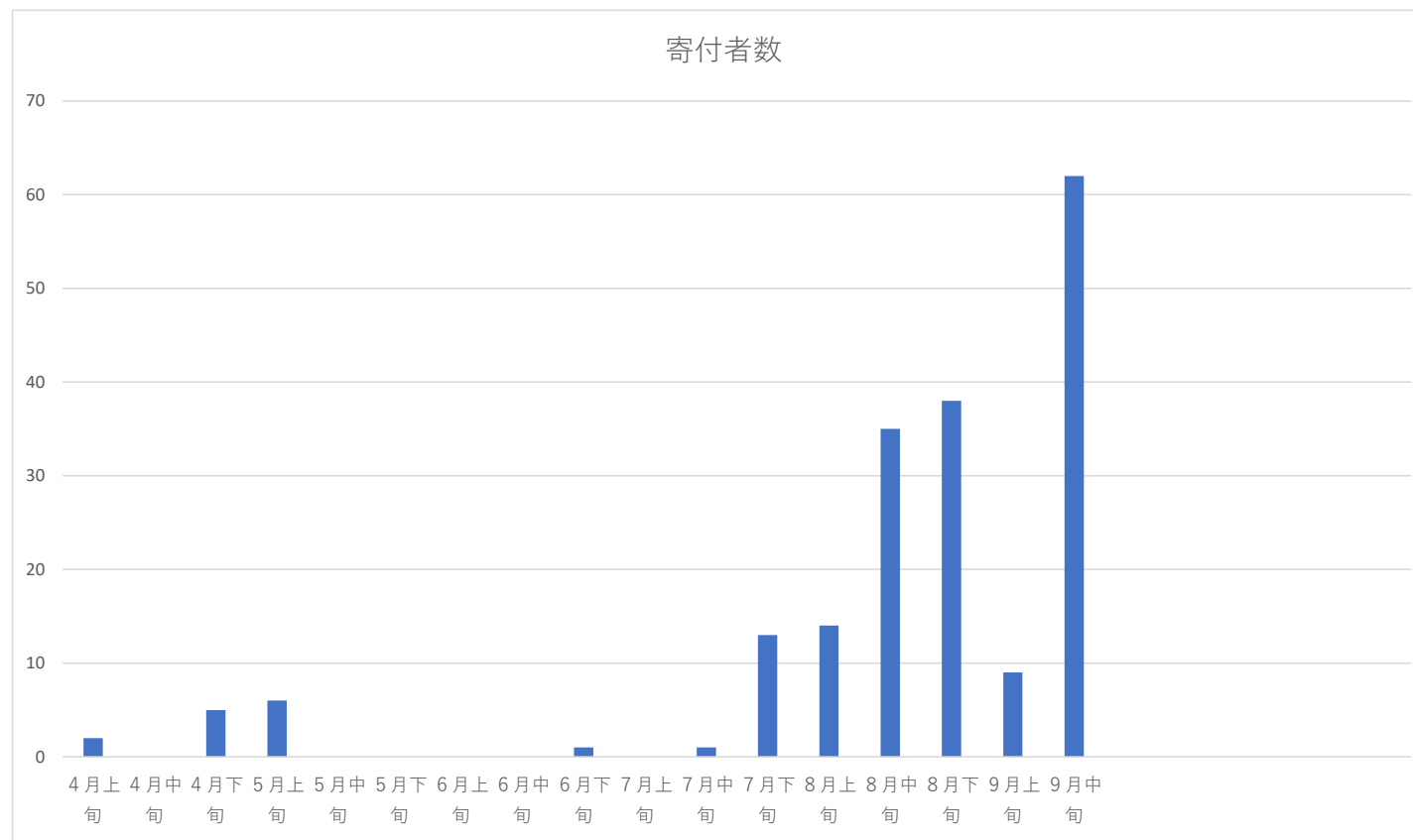
付記：１０／５までにセクション、委員会の会計責任者を決めて貰い事務局（渡辺さん）に連絡。以降の財務関係のメールはこのメンバーに送付。１０／２５までにセクション、委員会の予算要求を出して貰い。１１／１５に上記のヒヤリングを行う。

以上

寄附金受入名簿

個人情報_の為非公開とする

時期	寄付者数
4月上旬	2
4月中旬	0
4月下旬	5
5月上旬	6
5月中旬	0
5月下旬	0
6月上旬	0
6月中旬	0
6月下旬	1
7月上旬	0
7月中旬	1
7月下旬	13
8月上旬	14
8月中旬	35
8月下旬	38
9月上旬	9
9月中旬	62



共催・協賛・後援等一覧

申請日	承認日	種別	経費負担	申請対象	行事名称	主催者名	開催期間	開催場所
2018年4月6日	4月13日	後援	無し	連合	第59回高圧討論会	日本高圧力学会	2018年11月26日(月)～28日(水)	場所:岡山理科大学 所在地:〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
4月20日	4月20日	共催	無し	連合	第13回科学地理オリンピック日本選手権大会 兼第16回国際地理オリンピック選抜大会	国際地理オリンピック日本委員会	2018年12月～2019年3月	日本選手権大会:第1次選抜試験会場 全国各地 第16回国際地理オリンピック:香港
6月1日	6月8日	後援	無し	連合	日本学術会議 公開シンポジウムグローバル時代のデータ利用と可視化	日本学術会議 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会	2018年10月15日(月)	場所:日本学術会議講堂 所在地:〒106-0032 東京都港区六本木7丁目22-34
6月4日	7月31日	協賛	あり	大気水圏セクション	SOLAS (Surface Ocean-Lower Atmosphere Study 海洋・大気間の物質相互作用研究計画) Open Science Conference	SOLAS-International Project Office、SOLAS-OSC国内実行委員会、国内SOLAS小委員会	2019年4月21日(日)～年4月25日(木)	場所:北海道大学学術交流会館 所在地:〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西5丁目
7月6日	7月19日	後援	無し	連合	10th International Conference on Acid Deposition (ACIDRAIN 2020)	Acid Rain 2020 運営委員会	2020年10月19日(月)～10月23日(金)	朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
7月25日	7月31日	共催	無し	連合	アースサイエンスウィークジャパン	アースサイエンスウィークジャパン実行委員会	2018年10月13日(土)～2018年10月19日(金)	静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアム
9月7日		共催	あり	固体地球科学セクション・ハードロック掘削科学フォーカスグループ	SAKIGAKE-JpGU Hard-rock drilling Focus Group kick-off workshop	金沢大学	2018年11月6日(火)～ 2018年11月7日(水)	金沢大学

サポートレター等

申請日	承認日	種別	経費負担	申請対象	行事名称	依頼者名	備考
4月12日	5月2日	クレジット掲載	無し	連合	地球観測ブランドデザイン	今後の宇宙開発体制のあり方に関するタスクフォース会合(TF)リモートセンシング分科会	別途コメントを送付
5月30日	6月6日	サポートレター	無し	連合	国際共同利用・共同研究拠点認定	名古屋大学宇宙地球環境研究所	-
5月30日	6月6日	サポートレター	無し	連合	国際共同利用・共同研究拠点認定	愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター	-
6月1日	6月15日	サポートレター	無し	連合	国際共同利用・共同研究拠点認定	東京大学地震研究所	-
6月1日	6月15日	サポートレター	無し	連合	国際共同利用・共同研究拠点認定	高知大学海洋コア総合研究センター	-
6月10日	6月19日	サポートレター	無し	連合	国際共同利用・共同研究拠点認定	岡山大学惑星物質研究所	-

JpGU 2019 プログラム関連日程表

項目	対象者/担当者	期間
セッション提案	セッション開催希望者・学協会プログラム委員	9/3(月)～10/12(金)17:00
学協会セッション提出	学協会プログラム委員	10/15(月)～10/22(月)17:00
セッション採択会議	プログラム編成会議メンバー	10/23(火)
セクション帯案作成	セクションプログラム委員	10/25(木)～11/8(木)
プログラム編成会議	プログラム編成会議メンバー	11/13(火)
開催セッション一般公開	プログラム委員会	11/21(水)
コマ割・仮コマ数公開(コンビーナ)	プログラム委員会	11/21(水)
コマ割公開(一般)	プログラム委員会	12/3(月)
投稿	発表希望者	1/8(火)～2/19(火)17:00 ※早期締切2/4(月)23:59
(参加登録)	大会参加者	1/8(火)～受付開始 ※早期締切5/8(水)
セッション編成(採択・移動)	コンビーナ・プログラム委員会	2/20(水)～2/25(月)17:00
セッション編成(コマ数確定)	プログラム委員会	2/27(水)
セッション編成(発表順作成)	コンビーナ	2/28(木)～3/7(木)17:00
採択通知	プログラム委員会	3/13(水)
プログラム公開	プログラム委員会	3/14(木)
予稿PDF公開	プログラム委員会	5/17(金)

	提案 No.	希望ID	言語	タイトル	ジョイント
宇宙惑星科学(P)					
1	1	P-PS	E	Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow	
2	15	P-EM	E	Vertical coupling in the atmosphere and Ionosphere	
3	27	P-EM	E	Multi-scale Coupling in the Magnetosphere-Ionosphere-Thermosphere System	
4	29	P-CG	E	宇宙・惑星探査の将来計画と関連する機器開発の展望	
5	11	P-EM	J	大気圏・電離圏	
6	12	P-PS	J	惑星科学	
7	31	P-EM	J	宇宙プラズマ理論・シミュレーション	
大気水圏科学(A)					
1	20	A-HW	E	流域の物質輸送と栄養塩循環－源流域から沿岸海域まで－	AGU
2	34	A-HW	E	水循環・水環境	AGU
3	37	A-GE	E	地質媒体における物質移動, 物質循環と環境評価	
4	42	A-CG	E	Global Carbon Cycle Observation and Analysis	
5	7	A-HW	J	同位体水文学 2019	
6	10	A-CG	J	ダスト	
7	18	A-CG	J	地球環境科学と人工知能	
8	38	A-CG	J	北極域の科学	
地球人間圏科学(H)					
1	8	H-SC	E	Role of Geosciences for sustainable use of marine and coastal ecosystems in urbanized world.	AGU, EGU, AOGS
2	30	H-CG	E	International Comparison of Landscape Appreciation	
3	14	H-DS	J	津波とその予測	
固体地球科学(S)					
1	2	S-TT	E	Recent Advances in Exploration Geophysics 2019	
2	23	S-IT	E	地球型惑星内部での液体の特性とその役割	
3	40	S-CG	E	Science of slow earthquakes: Toward unified understandings of whole earthquake process	
4	3	S-CG	J	岩石・鉱物・資源	
5	16	S-MP	J	変形岩・変成岩とテクトニクス	
6	24	S-SS	J	地震予知・予測	
7	25	S-MP	J	鉱物の物理化学	
8	32	S-SS	J	地震活動とその物理	
■	19	S-CG	J	構造湖の環境形成・維持における断層の役割	
■	35	S-GD	J	重力・ジオイド	
■	39	S-CG	J	地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理	
地球生命科学(B)					
1	28	B-CG	J	地球史解説: 冥王代から現代まで	
教育・アウトリーチ(G)					
1	5	G	J	ブラタモリの作り方	
2	36	G	J	災害を乗り越えるための「総合的防災教育」	
領域外・複合領域(M)					
1	13	M-IS	E	Environmental, socio-economic and climatic changes in Northern Eurasia	AGU
2	21	M-TT	E	人新世における高精細地形・地球物理データの活用	EGU, AGU, AOGS
3	6	M-IS	J	ジオパーク	
4	9	M-AG	J	海洋地球インフォマティクス	
5	26	M-ZZ	J	地球惑星科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論	
6	33	M-GI	J	データ駆動地球惑星科学	
7	41	M-ZZ	J	地球惑星科学における学術出版の将来	
8	44	M-IS	J	結晶成長、溶解における界面・ナノ現象	
■	22	M-GI	E	Near Surface Investigation and Modeling for Groundwater Resources Assessment and Conservation	

ソーシャルメディア（SNS）を利用したポスター発表企画
（日本語名: SNS ポスター, 英語名: Social Media Poster）

2018 年 9 月 21 日

【企画内容】（要検討）

発展途上国で渡航費を捻出できない研究者あるいは学生に JpGU での発表の機会を提供する。将来的には、これが彼らが実際に大会会場に来て発表する、あるいは日本の研究教育機関にポスドクや研究員として来日するきっかけとなることを目標とする。さらにこのノウハウを様々なディスエイブルな人に対しても適用することも目標とする。

目的（要検討）：

- (1) JpGU 参加人数の拡大
- (2) 学術交流の促進
- (3) JpGU の国際的なプレゼンスを高める

1. 対象者

- ・発展途上国居住者 かつ正会員 ID を持ち、投稿をその ID で行った人
国籍でなく居住者

発展途上国定義は World Bank に記載の Low income および Lower-middle income の国とする

<https://datahelpdesk.worldbank.org/knowledgebase/articles/906519-world-bank-country-and-lending-groups>（AGU・AOGS も参加費の免除・割引の基準に使用）

居住の判別は原則所属機関で行う→所属機関がない場合は認めない

【条件】

- ・ポスターを PDF で送信できてメールでやり取りできるネット環境を持つこと
- ・投稿時には必ず発表形式を「ポスター」とすること

【手続きの流れ】

- (1) 11 月ごろ：コンビーナの希望を聞く（SNS ポスターをセッションとして受け入れるか受け入れないか）
- (2) 投稿期間中の定められた期日までに専用フォームにて必要事項を記入の上、申請をする
申請締切り→2/4（早期投稿締切と同日）
※申請者は申請締切日までに投稿料・参加費の支払いを済ませること。済んでいない場合は自動的に除外
投稿料、参加費は原則クレジットカード決済
- (3) 2 月 4 日～19 日：
 - ①事務局は必要条件を満たしていることを確認（非対象者をフィルターリング）
 - ②非対象者にはその通知および対象者へは実費（事務手数料、ポスター印刷、掲示代行手数料）の支払いを依頼

実費→Peatix(クレジット決済)の場合¥16,000, 銀行振込の場合¥16,000+¥4000（事務手数料）

※ただし、16,000 とするかは財務委員会に相談の上最終決定をする

- (4) 2月20日：事務局振込み済み確認後，SNSポスター発表者をコンビナーに通知
→この時点で発表者リストに載った全員は全条件をクリアし，投稿が採択となればSNSポスターも採択となる
- (5) 各セッションコンビナー裁量で採択，不採択を決定
SNSポスター発表者はポスター発表として採択．口頭発表への変更禁止
不採択の場合→実費返還，投稿料，参加費は返還しない

・SNSポスターで発生する作業
募集とそれに伴うやり取り→事務局
ポスターのデータ預かり・発注→事務局
実費の徴収+やり取り→経理
ポスター掲示→アルバイト
当日セッティング→アルバイト

2. 費用:参加費+実費（事務手数料，ポスター印刷，掲示代行手数料）

投稿料：3,240円 ※申込期間が早期投稿期間中なので投稿料は早期投稿料と同額となる
参加費：一日券で可（身分に応じた料金）
実費：Peatix(クレジット決済)の場合→¥16,000
銀行振込の場合→¥16,000+¥4000（事務手数料）

3. 発表形式：ポスターのみ

- ・SNSポスターには目印．通常ポスターと区別する為．
- ・招待講演となる/することはできない

4. ディスカッション方式（要検討）

- ・SNS（相互コミュニケーションツール）利用．
発表者はSNSツールの中から自分の希望するものをいくつか選んで質問者とディスカッションを行う．
ディスカッション方法は，例えば，JpGUアプリのcomment機能（スマホ・テキスト対話），Line（スマホ・テキスト対話），zoom（PC・対面会話），skype（PC・対面会話）など．
- ※ただし，利用するネット端末は発表者および質問者のものを使用．**
- ポスターに自分のSNSアドレスを明記した状態でポスター作成してもらう
- ・「発表終了後のポスターは一般の印刷物と同様の方法で破棄」
「個人情報等については了承の上で掲載してください」といった注意事項を事前に告知する．
- 原則コアタイムには発表者は待機していることとする

5. 注釈

- ・希望者が増えてしまった場合→上限を設ける（全体の5%まで，10%までなど）
- ・数で区切る場合→コンビナーが審査する
- ・キャンセル希望→期日までに決められた方法で申請をした場合は参加費のみ返金する．

- ・学生旅費補助と SNS ポスター→併願禁止．両方に申し込んだ場合は SNS ポスターを自動的に除外とする
- ・学生賞エントリー→不可
- ・証明書を発行するなら「インターネットを通じた発表（参加）」とする

6. その他 SNS ポスター参加者が受けられるサービス

- ・口頭発表（ユニオンのグレートディベート）の視聴．（Web カメラで撮影しライブ配信ツールで公開．）
- ・本サービスはポスター参加者だけでなく、全世界にオープンとするので、その旨を公示し、事前に発表者の了解をとる．

2019年度日本地球惑星科学連合フェロー候補者 推薦募集について

公益社団法人日本地球惑星科学連合は2019年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー（以下フェロー）の候補者を募集いたします。

日本地球惑星科学連合フェロー制度は、地球惑星科学において顕著な功績を挙げた方を高く評価し、名誉あるフェローとして処遇することを目的として設置されたものです。（関連規約はこちら）

フェローは推薦者により推薦され、会長の諮問委員会であるフェロー審査委員会において推挙された方々の中から、理事会において承認された方々となります。フェローには年齢制限、人数の制限は設けません。

1. JpGUフェローの満たすべき要件

以下のいずれかに該当する方

- （1）地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレイクスルーもしくは発見などを中心に、地球惑星科学の学術の発展に著しい貢献をした方
- （2）日本の地球惑星科学の発展、あるいは地球惑星科学の知識普及に著しい貢献をした方

2. JpGUフェロー被推薦者

会員・非会員を問いません。ただし、以下の者は推薦の対象となりません。

- ・ JpGUの現職理事・監事・セクションプレジデント
- ・ フェロー審査委員

3. 推薦の様式

JpGUフェローを推薦する方は以下の(1)～(8)の書類をもってJpGU会長に推薦をしてください。

ただし本人に受賞の意志があることを事前に確認してください。

- （1）被推薦者の個人情報および推薦者の情報（所定のフォーマットにご記入ください。）
日本語フォーマット ☐ 英語フォーマット ☐
- （2）被推薦者の履歴（専門分野、研究歴、受賞歴、大学・研究機関・学協会等に於ける貢献）
- （3）主要な論文あるいは特許等、あわせて5編のリストおよびその別刷り（コピー可）
- （4）全論文リスト
- （5）推薦理由書（A4で2ページ以内、日本語あるいは英語）
- （6）主な業績（400文字以内、日本語あるいは英語）
- （7）一行推薦理由（Short citation、日本語および英語）
日本語 フォーマット：「（専門分野、領域等への）顕著な貢献により」、文字数：50～80文字程度
英語 フォーマット：「for outstanding contributions to（専門分野、領域等）」、文字数：半角120～250文字程度
（参照：フェロー紹介ページ）
- （8）3通のサポートレター（推薦者以外3名による、A4で1ページ、日本語あるいは英語、連名を可とする。）

4. 推薦方法

- ・ 提出はワードファイル、およびそのPDF版を当該年度の推薦期間内に連合フェロー担当事務局 (jpgu_fellow(at)icloud.com) にメールにて送付してください。但し論文別刷りはPDFのみで結構です。
- ・ ワードファイル、PDFファイルはそれぞれ1ファイルにまとめてください。
- ・ ファイルの大きさは25Mbyteまでにしてください。
- ・ メールのはじめは「JpGUフェロー推薦書（候補者氏名）」としてください。
これ以外の件名で送信した場合、spamメールとして処理されるなど、正しく処理できない恐れがあります。
- ・ **受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は必ずお問い合わせ下さい。受領の確認メールが届いていない場合、推薦が受付されない恐れがあります。**
- ★推薦状送付先アドレス：jpgu_fellow(at)icloud.com

5. JpGUフェローの表彰

- ・ JpGU連合大会開催時にJpGUフェロー表彰式を開催し、メダル等を進呈します。

6. JpGUフェロー審査委員会

ログイン
入会・会員サービス
My JpGU
YouTube 過去の講演会
Facebook
Twitter
サイエンスセクション
連合大会
顕彰・表彰
組織
関連イベント
刊行物
公募求人
日本学術会議



- ・ JpGUフェロー審査委員は理事会の議を経て会長が委嘱します。
- ・ 委員は5名とし、任期を2年とします。ただし、半数（2ないし3名）を一年毎に改選します。
- ・ 委員は、JpGU正会員により構成します。
- ・ 委員長はJpGU会長が指名します。
- ・ 委員名は、当該年度の全委員が改選された時点で公表するものとします。

7. 推薦書送付期限：2018年12月31日（月） 必着

8. フェロー制度に関するお問い合わせ：担当理事 中村昭子 成瀬元 中村正人

9. 関連規則

公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー制度規則

公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー審査委員会規則

2018年10月1日

公益社団法人日本地球惑星科学連合

所在地：〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階

All Rights Reserved, Copyright 2005-2017 Japan Geoscience Union

第3回地球惑星科学振興西田賞候補者募集

公益社団法人日本地球惑星科学連合は第3回地球惑星科学振興西田賞の候補者を募集いたします。この賞は、国際的に評価を得ている優れた45歳未満の中堅研究者を表彰するものとして2014年に創設いたしました。賞の名称は西田篤弘会員（連合フェロー）のご提案と寄付金により賞を維持することに由来します。

1. 受賞者の条件

地球惑星科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ、国際的に評価を得ている方で審査年度当初（4月1日）に45歳未満の研究者が受賞対象者となります。（本年度については、1973年（昭和48年）4月2日以降に生まれた者。）日本地球惑星科学連合会員・非会員、国籍、性別は問いません。

2. 受賞者数

10名以内。受賞者配分においてはサイエンスセクションの規模を考慮します。

3. 推薦

i. 選考対象は他薦または自薦による候補者となります。候補者は会員・非会員を問いません。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることが出来ます。選考対象は推薦によるものとし、正会員による他薦、および自薦を認めます。ただし他薦の場合には本人に受賞の意思があることを事前に確認することが必要です。

ii. 推薦に必要な書類は以下の通りです。全て日本語が英語にて作成して下さい。両言語の混在は可とします。

(1) 候補者の名前、連絡先等（所属機関、住所、電話番号、メールアドレス、ORCID ID）

(2) 候補者が日本地球惑星科学連合会員の場合は候補者のJpGU ID および所属セクション。

所属セクション以外に関連の深いセクションがあればそちらも挙げてください。

(3) 候補者の経歴、受賞歴

(4) 全査読付き論文リストおよび主要論文5編の別刷り（主要論文はリスト上に明示してください。）

(5) 推薦理由書（A4で6ページ以内）

自薦の場合は本人が、他薦の場合は推薦者が作成してください。

(6) 短文タイトル（一行、日英）

参考：地球惑星科学振興西田賞受賞者紹介

(7) 自薦の場合は2通のサポートレター、他薦の場合は推薦者以外の2名のサポートレター

自薦の場合は本人以外の2名が作成してください。自薦の場合も他薦の場合もサポートレターを作成する2名については会員・非会員を問いません。

(8) 他薦の場合は推薦者の氏名と連絡先（住所、電話番号、メールアドレスなど）

iii. 提出はワードファイル、およびそのPDF版を当該年度の推薦期間内に地球惑星科学振興西田賞事務局

(jpgu_nishidasho@icloud.com) にメールにて送付してください。但し論文別刷り、およびサポートレターはPDFのみで結構です。

受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は電話にてお問い合わせ下さい。受領の確認メールが届いていない場合、推薦が受付されない恐れがあります。

4. 審査委員会

i. 各セクションから選出された委員で構成します。任期は選考を行う年度の10月から3月までとし最初の審査開始から最大4年まで再任を認めます。

ii. 委員は受賞候補者と同様の資格を満たし、当該分野の現状に通じた経験豊かな会員で、各サイエンスセクションから複数名（最低1名）の選出に基づき構成されます。分野毎の人数はサイエンスセクションの規模を考慮し、全体で15名程度といたします。

iii. 委員は当該年度の9月～10月の理事会で承認し、委員長は互選といたします。

iv. 委員の名簿は審査段階では非公開とし、受賞者発表時に公開する事と致します。

5. 第3回スケジュール

i. 2018年12月15日：推薦受付締切

ii. 2018年12月16日～3月理事会前日まで：審査期間

iii. 2019年3月理事会：審査委員長は結果を理事会へ報告、報告後すみやかに受賞者をホームページなどで発表します

iv. 受賞者を2019年の連合大会で表彰いたします。

v. 受賞者は2020年の連合大会で記念講演を行って頂きます。

6. 顕彰方法

i. 賞状を贈ります

ii. 副賞として受賞者に1件あたり50万円を贈ります。

賞の規則及び審査委員会規則は以下に掲示されています。

<http://www.jpogu.org/organization/files/nishidashou.pdf>

ログイン
入会・会員サービス
My JpGU
YouTube 過去の講演会
Facebook
Twitter
サイエンスセクション
連合大会
顕彰・表彰
組織
関連イベント
刊行物
公募求人
日本学術会議



<http://www.jpгу.org/organization/files/nishidashou.pdf>
http://www.jpгу.org/organization/files/nishidashou_shinsa.pdf

この賞についてのご質問は jpgu_nishidasho@icloud.com にお問い合わせ致します。

2018年10月1日

顕彰制度担当理事 中村昭子 成瀬元 中村正人

公益社団法人日本地球惑星科学連合

所在地：〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階

All Rights Reserved, Copyright 2005-2017 Japan Geoscience Union

教育検討委員会活動報告

2018 年 9 月 25 日作成

担当理事 市川 洋

1. 委員会体制について

委員会委員による互選の結果、以下の体制となった。

委員長：市川 洋 副委員長：宮嶋 敏、木村 学

幹事：西 弘嗣、阿部 なつ江、畠山 正恒、瀧上 豊、阿部 國廣、根本 泰雄、
西山 忠男、田口 康博

2. 2018 年国際地学オリンピック参加の結果報告

2018 年 8 月 8 日～17 日にタイのカンチャナブリで第 12 回国際地学オリンピック・タイ大会が開催され、38 ヶ国・地域から 139 人の代表選手が参加しました。日本チームは代表生徒 4 名とゲスト生徒（表彰対象外）2 名、メンター 2 名、オブザーバー 6 名の体制でした。

日本の成績は金メダル 3 個、銀メダル 1 個。メダル数から推定した国順位は 1 位が米国（金 4）、日本は昨年同様 2 位でした。今年も上位層は僅差でメダルの色が異なる争いとなりました。なお、ゲスト生徒は 2 名とも銀メダル相当の成績でした。

試験は 2 種の筆記と 4 種の実技で、筆記 1 の内容は、大陸氷河の消長、石灰岩地帯の洞窟環境の地球化学、第四紀の気候変動といった地球システムに関する問題でした。また天文分野は、土星の衛星や火星の地形や地質で、昨年度同様、太陽系科学のみの出題でした。その他に、アイソスタシーに関する問題や最近の気温変化のグラフを使った問題、海洋学に関する問題など、示された情報から読み取る能力が求められる、いわゆる「PISA 型」の問題が見られました。筆記 2 は高校地学レベルの都市気象の問題、そして太陽系科学（火星、月、金星）の問題、過去の地球の環境に関する問題などでした。実技 1 は、標本を見て岩石・鉱物、化石の同定や堆積岩の形成環境に関する問題、工業原料の鉱石に関する問題でした。実技 2・3 は露頭での地層の走向・傾斜測定と岩石の同定、地質構造の解釈、実技 4 は大陸氷床融解のモデル実験と水質汚染に関する問題でした。

帰国後の 8 月 22 日に文部科学省の新妻秀規大臣政務官を表敬訪問し、代表生徒全員が大臣表彰を受けました。懇談は高校地学の学習内容の話で盛り上がりました。

来年は韓国大会で、評価の比率が筆記試験 6 割、実技試験 4 割と変更されることが決まりました（今までは筆記 7 割、実技 3 割）。来年度に向けて、わが国の生徒が持っている優れた資質・能力を国際大会でいかに発揮できるよう、あらゆる面での皆様の一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

NPO 法人 地学オリンピック日本委員会 理事長 川村 教一（秋田大学） JGL 原稿

3. 2018 年国際地理オリンピック参加の結果報告

第 15 回国際地理オリンピック・カナダ大会には 43 か国・地域、合計 167 名の高校生が参加し、7 月 31 日～8 月 6 日までの日程の中、記述式、フィールドワーク、マルチメディアの 3 種類の試験にチャレンジをしました。フィールドワークは、ケベック・シティの中心市街地から北東方向、セ

ントローレンス川沿いにバスで約1時間に位置するペー・サン・ポールで実施され、景観観察を通じて地図作成などを行いました。

試験以外にも、ポスターセッション、2つのエキスカッション、文化交流と盛りだくさんのプログラム内容で、日本選手たちは自身の地理的能力をいかんなく発揮するとともに、各国の選手たちとの交流もおおいに楽しみました。その中で、団体部門のポスターセッション（テーマは「水が人々の生活に与える影響」）では、日本選手4人は浴衣を着て各国の参加者たちにプレゼンを行いました。地理学的な研究手法にのっとり、調査地域（静岡県三島市）の特性を踏まえ、富士山がもたらした湧水の恵みと地域住民の関わり、そして三島で過去に生じた課題に対してどのような解決策がなされているかをプレゼンしました。

個人部門では残念ながらメダルを獲得することはできませんでしたが、彼ら一人ひとりは大いに健闘してくれました。佐藤光駿くん（東京・早稲田高校3年）、長岡祐生くん（鹿児島・ラ・サール高校3年）、武藤彰宏くん（都立日比谷高校3年）は、今後はOBとして今回の経験を来年度以降の代表生徒に伝えていってくれるでしょう。また、中尾俊介くん（京都・洛星高校2年）は、来年度も高校生として様々なことに挑戦してほしいと思います。また、閉会式の日夜には、国際地理オリンピック日本委員会委員長の小口高先生をはじめとした、IGUに参加をされている先生方との懇親会も開かれました。

ケベックから帰国後の8月9日、日本代表選手4名は、文部科学省を表敬訪問しました。

次年度は香港での開催となります。日本代表の今回の健闘を称えるとともに、日本代表の次回以降のさらなる活躍を期待したいと思います。

国際地理オリンピック日本委員会ウェブサイトより作成

4. アースサイエンスウィーク・ジャパン in 静岡の準備状況について

開催日：10月13日－19日

場 所：ふじのくに地球環境史ミュージアム、他

日 程：13－19日 地球科学特別展示（休館日の15日(月)を除く）

13日 講演会・発表会

14日 北伊豆ジオパーク巡検

担 当：教育国際対応小委員会

準備状況：

8月24日にウェブサイトをオープン（<https://www.earthsciweekjp.org/>）

9月6日に2種のリーフレットを完成

9月12日に以下のウェブサイトのイベント情報欄に開催情報を掲載

JSTサイエンスポータル、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会

巡検の申込人数 33名（9月25日現在）

5. 第76回教育課程小委員会開催

日時：9月22日(土) 13時－17時

場所：学会センタービル地下会議室

議題：・次期学習指導要領（解説）の内容理解、

・次年度パブリックセッションについて、 他

以上

1. PEPS 論文投稿・出版状況(資料 J_1)2018/9/24 現在

1).論文投稿数(Total:387)

- ～2015 年： 146 (Review-42, Research-95, Methodology-4, Editorial-4, Correction-1,)
- 2016 年： 61 (Review-6, Research-50, Methodology/Preface/Datapaper-4, correction -1)
- 2017 年： 110 (Review-11, Research-92, Methodology/Preface/Datapaper-6, correction -1)
- 2018 年： 90 (Review-11, Research-70, Methodology/Datapaper-7, correction -2)
- ・査読中 : 61 (Review-8 Research-49, Datapaper-8)
- ・出版校正中: 14 (Review-2, Research-12)

2).出版論文数(Total:212 Review 論文 23.2%)

- ～2015 年： 75 (Review-22, Research -49, editorial-3, Correction-1)
- 2016 年： 38 (Review-10, Research-22, Methodology-1, Preface-3, Editorial-1, correction-1)
- 2017 年： 42 (Review-7, Research-33, Methodology-1, correction-1)
- 2018 年： 57 (Review-7, Research-46, Datapaper-2, correction-2)

3).Reject/withdrawn 済: 119 (30.0%)

資料J.1.Progress in Earth and Planetary Science 出版・投稿状況

■出版状況

(2018/09/24)

	2014				2015				2016				2017				2018				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total
1. Space and planetary sciences	2	1	0	3	6	5	0	11	2	1	0	3	2	3	0	5	4	9	0	13	16	19	0	35
2. Atmospheric and hydrospheric	8.0%	4.0%	0.0%	12.0%	13.0%	10.9%	0.0%	23.9%	5.6%	2.8%	0.0%	8.3%	4.9%	7.3%	0.0%	12.2%	7.3%	16.4%	0.0%	23.6%	7.9%	9.4%	0.0%	17.2%
3. Human geosciences	2	5	0	7	2	3	0	5	2	3	0	5	1	9	0	10	1	15	0	16	8	35	0	43
4. Solid earth sciences	8.0%	20.0%	0.0%	28.0%	4.3%	6.5%	0.0%	10.9%	5.6%	8.3%	0.0%	13.9%	2.4%	22.0%	0.0%	24.4%	1.8%	27.3%	0.0%	29.1%	3.9%	17.2%	0.0%	21.2%
5. Biogeosciences	0	2	0	2	0	2	0	2	0	1	0	1	0	7	0	7	0	3	0	3	0	15	0	15
6. Interdisciplinary research	0.0%	8.0%	0.0%	8.0%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	2.8%	0.0%	2.8%	0.0%	17.1%	0.0%	17.1%	0.0%	5.5%	0.0%	5.5%	0.0%	7.4%	0.0%	7.4%
Subtotal	2	9	0	11	4	14	0	18	3	13	3	19	2	9	0	11	2	12	0	14	13	57	3	73
Editorial/Correction	8.0%	36.0%	0.0%	44.0%	8.7%	30.4%	0.0%	39.1%	8.3%	36.1%	8.3%	52.8%	4.9%	22.0%	0.0%	26.8%	3.6%	21.8%	0.0%	25.5%	6.4%	28.1%	1.5%	36.0%
Total	1	0	0	1	1	3	0	4	0	3	0	3	0	4	0	4	0	3	0	3	2	13	0	15
Editorial/Correction	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%	2.2%	6.5%	0.0%	8.7%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	9.8%	0.0%	9.8%	0.0%	5.5%	0.0%	5.5%	1.0%	6.4%	0.0%	7.4%
Subtotal	0	1	0	1	3	3	0	6	3	4	1	5	2	1	1	4	0	4	2	6	8	10	4	22
Editorial/Correction	0.0%	4.0%	0.0%	4.0%	6.5%	6.5%	0.0%	13.0%	8.3%	2.8%	2.8%	13.9%	4.9%	2.4%	2.4%	9.8%	0.0%	7.3%	3.6%	10.9%	3.9%	4.9%	2.0%	10.8%
Subtotal	7	18	0	25	16	30	0	46	10	22	4	36	7	33	1	41	7	46	2	55	47	149	7	203
Editorial/Correction	28.0%	72.0%	0.0%	100%	34.8%	65.2%	0.0%	100%	27.8%	61.1%	11.1%	100%	17.1%	80.5%	2.4%	100%	12.7%	83.6%	3.6%	100%	23.2%	73.4%	3.4%	100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
Editorial/Correction	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
Total				29				46				38				42				57				212

■投稿状況

(2018/09/24)

	～2014				2015				2016				2017				2018				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Preface	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Case	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Case	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Case	Total
1. Space and planetary sciences	8	9	0	17	3	8	1	12	1	5	0	6	7	19	0	26	4	5	2	11	23	46	3	72
2. Atmospheric and hydrospheric	11.9%	13.4%	0.0%	25.4%	4.1%	10.8%	1.4%	16.2%	1.7%	8.3%	0.0%	10.0%	6.4%	17.4%	0.0%	23.9%	4.5%	5.7%	2.3%	12.5%	5.8%	11.6%	0.8%	18.1%
3. Human geosciences	5	7	0	12	3	8	0	11	1	9	0	10	1	30	1	32	1	11	1	13	11	65	2	78
4. Solid earth sciences	7.5%	10.4%	0.0%	17.9%	4.1%	10.8%	0.0%	14.9%	1.7%	15.0%	0.0%	16.7%	0.9%	27.5%	0.9%	29.4%	1.1%	12.5%	1.1%	14.8%	2.8%	16.3%	0.5%	19.6%
5. Biogeosciences	1	4	0	5	0	4	0	4	0	7	0	7	0	7	0	7	1	7	0	8	2	29	0	31
6. Interdisciplinary research	1.5%	6.0%	0.0%	7.5%	0.0%	5.4%	0.0%	5.4%	0.0%	11.7%	0.0%	11.7%	0.0%	6.4%	0.0%	6.4%	1.1%	8.0%	0.0%	9.1%	0.5%	7.3%	0.0%	7.8%
Subtotal	3	17	1	21	10	23	2	35	3	20	2	25	1	19	2	22	2	28	2	32	19	107	9	135
Editorial/Correction	4.5%	25.4%	1.5%	31.3%	13.5%	31.1%	2.7%	47.3%	5.0%	33.3%	3.3%	41.7%	0.9%	17.4%	1.8%	20.2%	2.3%	31.8%	2.3%	36.4%	4.8%	26.9%	2.3%	33.9%
Total	2	3	0	5	0	3	0	3	0	5	0	5	0	7	1	8	1	7	0	8	3	25	1	29
Editorial/Correction	3.0%	4.5%	0.0%	7.5%	0.0%	4.1%	0.0%	4.1%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	6.4%	0.9%	7.3%	1.1%	8.0%	0.0%	9.1%	0.8%	6.3%	0.3%	7.3%
Subtotal	2	5	0	7	5	4	0	9	1	4	2	7	2	10	2	14	2	12	2	16	12	35	6	53
Editorial/Correction	3.0%	7.5%	0.0%	10.4%	6.8%	5.4%	0.0%	12.2%	1.7%	6.7%	3.3%	11.7%	1.8%	9.2%	1.8%	12.8%	2.3%	13.6%	2.3%	18.2%	3.0%	8.8%	1.5%	13.3%
Subtotal	21	45	1	67	21	50	3	74	6	50	4	60	11	92	6	109	11	70	7	88	70	307	21	398
Editorial/Correction	31.3%	67.2%	1.5%	100%	28.4%	67.6%	4.1%	100%	10.0%	83.3%	6.7%	100%	10.1%	84.4%	5.5%	100%	12.5%	79.5%	8.0%	100%	17.6%	77.1%	5.3%	100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	4
Editorial/Correction	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	5
Total				71				75				61				110				90				407

注: 2016年～2018年の総投稿数には、投稿システム内で投稿番号が付与されないErratum原稿各1件も含むため、実際の投稿受付番号よりも1件ずつ多い。18-00057はTest(Research.2.A)

■編集状況

(2018/09/24)

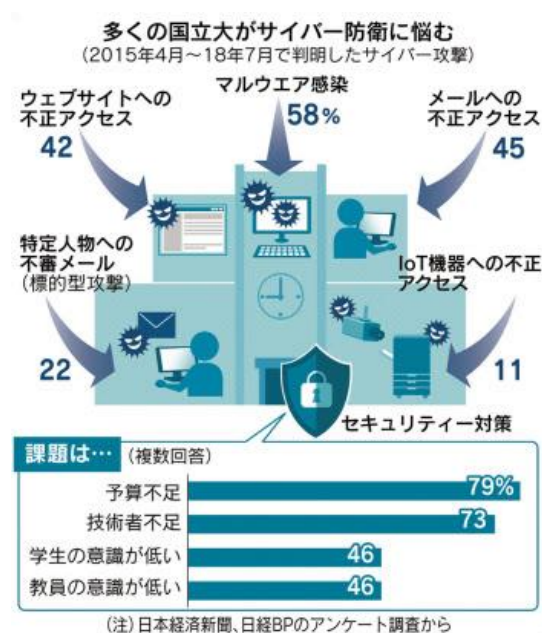
	Review	Resarch	Methodology /Data paper /Preface	Subtotal	Editorial + Correction	Total
Published	47	149	7	203	9	212
Accepted including Provisionally-accepted	11.8%	37.5%	1.8%	51.1%	-	-
Under review	2	12	0	14	0	14
Rejected/Withdrawn	0.5%	3.0%	0.0%	3.5%	-	-
Under review	8	49	4	61	0	61
Rejected/Withdrawn	2.0%	12.3%	1.0%	15.4%	-	-
Rejected/Withdrawn	13	98	8	119	0	119
Rejected/Withdrawn	3.3%	24.7%	2.0%	30.0%	-	-
Total	70	308	19	397	9	406
	17.6%	77.6%	4.8%	100.0%	-	-

件名：JpGU 情報安全管理（IT Security）
報告者：事務局（担当：篠崎、杉村、末広）

経緯：JpGU の活動において個人情報の安全な管理体制の構築と維持は不可欠な業務である。すなわち、個人情報保護法あるいは欧州の GDPR などの関連法律を遵守し、リスクを想定しつつ想定外の事態も起きうることまで念頭に、会員および大会参加者、業務委託業者の情報を保護しなくてはならない。この観点から、まず JpGU のプライバシーポリシーを見直し、第 3 回理事会において草案を提出した。その後、細部の改訂を進め、JpGU 担当弁護士のアドバイスも受けて、9 月の 2019 年大会セッション提案開始直前にプライバシーポリシーの公表を行なった。従来のポリシーから注目すべき変更点は、個人情報の具体的な取り扱いについて明示し、さらに当該個人の積極的同意を得たうえで、JpGU として個人情報を利用するということである。現在のところ、過去からの個人情報の利用のし方そのものが、変更されたというわけではない。

2019 年大会およびその後に向けて：当然、プライバシーポリシーに則った情報安全管理の実践が求められる。個人情報の正当な取り扱い、リスクからの保護を維持するための方策と実行計画を、事務局内に担当者を任命し、策定しつつある。運用に当たっては、総務および、情報システム委員会他関連委員会による監督が望まれる。現在の目標は、データフローの把握、一貫性と信頼性の確保、事務局内外での情報安全管理対策、リスクの洗い出し、リスク対応策の策定、周知を年内に行い、2019 年初頭からの大会投稿開始に備える。

情報管理技術は日進月歩であり、JpGU の情報安全管理も経常的な活動になろう。できる最善（ベストプラクティス）を尽くし、連携国際学会とも情報交換する。



参考：日本経済新聞 2018/09/18 記事

プライバシーポリシー改訂のお知らせとお願い

(10月12日まで)

JpGUはプライバシーポリシーを改訂し、9月3日より新しいポリシーの元でみなさま(正会員、准会員、2019年大会参加ID、JpGUに参加するAGU会員のJpGU ID)の個人情報を保護し、管理させていただきます。

この新しいプライバシーポリシーに同意していただけるかどうか、10月12日までに、個人情報を登録されているみなさま全員からお返事をいただく必要があります。

同意を得られない場合には、10月13日以降、会員サービスを使用することができなくなります。

また、JpGU2019年大会の開催(2019年5月26-30日、千葉幕張メッセにて開催)に向けてセッション提案の受付が9月3日から10月12日の期間に行われます。JpGU2019セッション提案システム(2019SPS)にてスムーズかつ有効な運用を可能にするために、例年通り、セッション提案者は、このシステム上から、他の共同コンビーナーの登録の際に他のJpGU ID登録者を検索できます。

セッション提案期間と新プライバシーポリシーの確認期間が重複するため、セッション提案期間中のSPS上では、例年通りとは言え、新プライバシーポリシーをご確認いただいていない方の情報も閲覧可能な状態となります。やむをえない期間とは言え、できる限り、SPSでの利用の前に、会員のみなさまを含め、ID登録者の方にはご自身でのプライバシーポリシーのご確認及びご判断をお願いしたく、下記ボタンより、お早目のお手続きをお願いいたします。

※ID/PWでログインしていただくと、確認画面が表示されます。

=====
<https://www.member-jpogu.org/jpogu/ja/>
=====

本件につきまして、ご意見・ご質問が有ります場合は、コンタクトフォーム(<https://business.form-mailer.jp/fms/173daba289725>)よりお知らせください。何卒よろしくお願いいたします。

旧（2018年9月2日まで） ※比較のために項目の順番を入れ替えています。	現行（2018年9月3日より）
日本地球惑星科学連合 プライバシーポリシー 個人情報に関するお取り扱いについて公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「日本地球惑星科学連合」又は「本連合」と言います。）は、 プライバシーポリシーを以下のように定め、個人情報の適切な保護に努めます。 ・法令順守 日本地球惑星科学連合は、個人情報を取り扱う際に、個人情報保護に関する諸法令を順守します。 ・プライバシーポリシーの変更 個人情報の保護に関する法律が改正された場合やその他の理由によって、この個人情報保護ポリシーを予告なく変更することがありますので、ご了承下さい。なお、このような変更は、すべて Web サイトで公表し、その掲載日から効力が発生するものといたします。また、日本地球惑星科学連合が保有する個人情報については、法令や本人との合意に反しない限り新しい個人情報保護ポリシーを適用させていただきます。 ・個人情報の収集 日本地球惑星科学連合は、本連合の事業目的に沿ったサービスを提供するために、個人情報を利用目的達成に必要な範囲で収集いたします。また、個人情報を収集する際は、その目的を明示するとともに、本人の意志に基づく情報提供（登録）を原則とします。	日本地球惑星科学連合 プライバシーポリシー 個人情報の取り扱いについて公益社団法人日本地球惑星科学連合（JpGU）は、プライバシーポリシーを以下のように定め、個人情報の保護とその適正管理に努めます。情報の適正な収集、保護と管理については個人を特定する「個人情報」以外に提供いただく情報（性別、所属など）についても本人の同意をもとに実施します。 1. 法令順守 JpGU は、個人情報を取り扱う際に、個人情報の保護に関する法律を順守します。 また、欧州経済領域（EEA）に所在の方からの情報の取り扱いについては、EU 一般データ保護規則（GDPR）も順守します。 2. 適用範囲 このプライバシーポリシーは、会員、JpGU 大会参加者、JpGU ウェブサイト訪問者、 JpGU の外部委託契約者の方々および JpGU 事務局員が JpGU 活動に関わる場合に適用されます。 3. プライバシーポリシーの変更 個人情報の保護に関する法律が改正された場合やその他の理由によって、このプライバシーポリシーを予告なく変更することがありますので、ご了承下さい。なお、このような変更は、すべて Web サイトで公表し、その掲載日から効力が発生するものといたします。 また、JpGU が保有する個人情報については、法令や本人との合意に反しない限り新しいプライバシーポリシーを適用します。 4. 個人情報の収集 JpGU は、その事業目的に沿ったサービスを提供するために、個人情報を使用目的達成に必要な範囲で収集いたします。 また、個人情報を収集する際は、その目的を明示するとともに、本人の同意に基づいて情報提供（登録）を受け、管理、使用します。 事業目的の達成に必要な範囲内において個人情報の取り扱いの全部又は一部を委託する場合は、このプライバシーポリシーの順守を契約に含めます。 5. 収集する情報

・個人情報の利用 日本地球惑星科学連合は、個人情報を以下の利用目的の達成のために必要な範囲でのみ利用します。 1.連合大会への投稿及び参加者への予稿集の発送等、連合大会の運営のため 2.サイエンスセッションでの情報交換等、本連合の活動のため（本連合会員に限る） 3.代議員選挙等、本連合の運営のため（本連合会員の個人情報に限る） 4.その他本連合の事業目的を達成するため 5.本連合の団体会員の活動を支援する目的での団体会員への提供 但し、次のいずれかの場合には利用目的外に利用又は提供することがあります。 1.令の規定に基づくとき 2.予め本人の同意があるとき 3.事業目的の達成に必要な範囲内において個人情報の取り扱いの全部又は一部を委託するとき （例えば、雑誌の配送を委託した会社に氏名と宛先を知らせる場合） ・個人情報の団体会員への提供 日本地球惑星科学連合は、団体会員の活動を支援する目的で、本連合が管理する個人情報のうち次の項目について団体会員に提供することがあります（例えば、連合大会の投稿システムを利用する方法により、団体会員が秋季大会を運営する場合等）。この場合、団体会員に対して、個人情報の適切な管理を行うように監督を行います。 （団体会員へ提供できる個人情報の項目） ◦ID 番号 ◦氏名（フリガナ及び英字を含む） ◦所属機関名称（正式名称及び略称、それぞれの英語）	収集する個人情報は、個人を特定できる名前、電子メールアドレスなどの連絡先のほか、個人を特定しない年齢、性別、在住国、専門分野統計情報などがあります。このほか業務によってはパスポート情報などが必要になる場合もあります。 また、ウェブアクセスの際に、サービス向上のために、ブラウザ情報（JpGU および関連ウェブサイトへのアクセスに利用したブラウザ）、リファラー（ある URL へのリンクから移動したかの記録）、クッキー（利用者のブラウザ内に JpGU および関連ウェブサイトをアクセスした記録を残す機能；利用者によって機能の選択可能）、IP アドレス（アクセスされている地域の判別が可能）が自動的に収集される場合があります。 6. 個人情報の使用 JpGU は、個人情報を以下の使用目的の達成のために必要な範囲でのみ使用します。 (1) 日本地球惑星科学連合大会をはじめ、JpGU が主催、共催する学術大会への参加、投稿、セッション提案の管理運営のため。 （参加、投稿、セッション提案者には他の ID 保有者の個人情報の検索が可能となります） (2) サイエンスセッションでの情報交換等、JpGU の目的に沿う活動のため（会員に限る） (3) 会費の徴収、代議員選挙、顕彰、アウトリーチを含む各種委員会活動など JpGU の運営目的に沿う活動のため (4) 学会誌の刊行、論文投稿、査読、編集、出版のため (5) その他 JpGU の事業目的を達成するため 但し、次のいずれかの場合には使用目的外に使用又は提供することがあります。 (1) 法令の規定に基づくとき (2) 予め本人の同意があるとき (3) 人の生命、身体または財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき (4) 公衆衛生の向上または児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき
--	--

・個人情報の管理 日本地球惑星科学連合は、本連合の会員・非会員に関わらず、保有する個人情報が正確かつ最新の内容を維持できるように努めます。 本連合は、本連合の会員・非会員に関わらず、個人情報が外部へ漏洩したり、破壊や改ざんを受けたり、滅失することの無いよう適切な安全管理措置を講じます。 ・個人情報の開示・訂正・利用停止の請求等に対する対応 1.日本地球惑星科学連合は、法令の定めに従い、次の方針で本連合の保有する個人情報の開示・訂正・利用停止等の請求があった場合、適切な対応に努めます。 1.本人又は本人の認めた代理人から個人情報の利用目的の通知又は個人情報開示の請求があった場合は、所定の手続きに基づき速やかに通知又は開示します。 2.本人又は本人の認めた代理人から個人情報の訂正、追加又は削除（以下、「訂正等」と言います。）の請求があった場合は、所定の手続きに基づいて速やかに訂正等を行います。 3.本人又は本人の認めた代理人から、個人情報の利用停止もしくは消去又は第三者提供の停止（以下、「利用停止等」と言います。）の請求があった場合は、所定の手続きに基づき、その求めに理由があることを確認した上で、利用停止等を行います。 2.各請求の具体的方法、必要な書類及び手数料については、下記問合せ先にお問い合わせください。 3.その他、個人情報の取扱いに関するご意見、ご要望についても適切かつ速やかに対応いたします。下記問合せ先にご連絡ください。	(5) 国の機関もしくは地方公共団体またはその委託を受けた者が法令に定める事務をすることに対して協力する必要がある場合であって、 本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき 7. 個人情報の管理 JpGU は、会員・非会員に関わらず、保有・管理する個人情報が正確かつ最新の内容を維持できるように努めます。 JpGU は、会員・非会員に関わらず、保有・管理する個人情報が外部へ漏洩したり、破壊や改ざんを受けたり、 滅失することの無いよう適切な安全管理措置を講じます。 また、万一保護管理上の問題が生じた場合の問題認知、通知から解決までの手順を定めます。 8. 情報の保持期間 JpGU の活動目的に照らして個人情報を保持する明確な理由がある期間あるいは法令の適用期間がある期間。 この期間を過ぎた情報は消去もしくは個人の特定を不可能にします。 9. 個人情報の開示・訂正・利用停止の請求等に対する対応 JpGU は、法令の定めに従い、JpGU の保有・管理する個人情報の開示・訂正・使用停止等の請求があった場合、請求者が本人である確認を行ったのち、適切な対応に努め、迅速に対応します。 それぞれの手続きについては URL:www.jpгу.org にて案内します。 (1) 情報開示 本人から個人情報の使用目的の通知又は個人情報開示の請求があった場合は、所定の手続きに基づき速やかに通知又は開示します。 請求に添えない場合には理由を説明します。 (2) 訂正等 本人個人情報の訂正、追加又は削除（以下、「訂正等」と言います。）の請求があった場合は、所定の手続きに基づいて速やかに訂正等を行います。 請求に添えない場合には理由を説明します。 (3) 使用停止等 本人から、個人情報の利用停止もしくは消去又は第三者提供の停止（以下、「使用停止等」と言います。）の請求があった場合は、 所定の手続きに基づき、使用停止等を行います。請求に添えない場合には理由を説明します。
--	--

・Web サイトにおける扱い

日本地球惑星科学連合の設ける Web サイト（以下、当サイトという）の利用は、利用者の責任において行われるものとします。当サイト、および当サイトにリンクが設定されている他の Web サイトから取得した各種情報の利用によって生じたあらゆる損害に関して、日本地球惑星科学連合は一切の責任を負いません。

・本件に関する問い合わせ先

日本地球惑星科学連合における個人情報保護についてご意見ご質問などがある場合は、以下までご連絡をお願いいたします。

日本地球惑星科学連合 事務局

Tel:03-6914-2080 Fax:03-6914-2088 E - mail:reg @jpgu.org

・その他

平成 22 年 1 月 12 日以前から日本地球惑星科学連合が保有する個人情報（法人化前の「日本地球惑星科学連合」にご提供いただいた個人情報も含みます。）については、上記と同様の取り扱いをさせていただきます。

以上

平成 18 年 9 月 1 日掲載

平成 21 年 12 月 7 日一部改定の上、平成 22 年 1 月 12 日掲載

10. 本件に関する問い合わせ先

JpGU における個人情報保護、プライバシーポリシーについての質問、要望などは、日本地球惑星科学連合 事務局 情報保護担当まで連絡をお願いします。